

# 南中学校 国語科学習指導案

授業学級	第 2 学年 1 組
単元名	自分や友達の書いた作品を分析し、より良い字を書こう
授業者	高橋 晴香



## 第2学年1組 国語科学習指導案

令和7年12月17日(水) 第2校時  
 生徒数 男子21名 女子20名 計41名  
 授業者 高橋 晴香

1. 単元名・教材名 自分や友達の書いた作品を分析し、より良い字を書こう

書き初め 題字「強い信念」

2. 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は授業に積極的に参加し、話し合い活動も活発に行える生徒が多い。アンケートの結果、国語が好きという生徒が約70%ほどであったのに対し、書写(硬筆・書き初め)を好きだと答えた生徒は29%と非常に少なかった。国語が好きでも書写、特に書き初めに関しては苦手意識を持っている生徒が多い。苦手と感じる理由として「字を書くのが好きではない」「苦手だ」「うまくかけない」という意見がほとんどであった。

本単元では字の上手い下手関係なく、文字を書くだけになりがちな書き初めに話し合い活動を設け、書くことを楽しみながら取り組ませたい。また、自他の作品を分析、比較し、よりよい作品を書くための改善点を模索することで、我が国の伝統文化としての書写を意識し、書写をより身近なものに感じてもらうきっかけにしたい。

3. 研究主題と具体的な取り組みについて

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は国語科における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実」
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいの提示</li> <li>・話し合い活動の設定</li> <li>・発表(全体、小グループ)の場の設定</li> <li>・振り返りカードでの今日の振り返り、単元のまとめ記入</li> <li>・ノートやプリント、タブレットでの自分の考えをまとめる活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の単元で学んだことの確認</li> <li>・自分の考えを書かせたあとの共有</li> <li>・単元毎の話し合い活動(隣、自由、小グループ)</li> </ul>

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見出す学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
国語	・前の単元で学んだことの確認	・振り返りカードの活用

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元毎の話し合い活動（隣、自由、小グループ）</li> <li>・まとめ方の手段の選択（ノート、タブレット）</li> </ul>	
--	---	--

#### 4.単元の目標

①漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる【知識及び技能】（3）ウ（ア）、（1）ウ

②言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

#### 5.本単元における言語活動

題字のポイントを意識しながら、丁寧に読みやすく書く。

#### 6.単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
①漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書いている。（3）ウ（ア）、（1）ウ	①進んで行書とそれに調和した仮名の書き方について考えながら、今までの学習を生かして題字を書こうとしている。

#### 7.指導と評価の計画及び主題に迫る活動（全4時間）

時	本時の目標・学習活動	目標を達成した子どもの姿（評価）	「主体性・多様性」の視点に基づく学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習課題の提示をする。</li> <li>●自分の学習目標を立てる</li> <li>●漢字の行書と仮名の調和について学ぶ</li> <li>●今回の題字のポイントを押さえる。</li> <li>●本時の内容を踏まえ、次回の学習課題を提示し、自分の目標を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字の行書と仮名の調和について理解している。</li> <li>●今回の題字のポイントを押さえて書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ねらいの提示</li> <li>●振り返りカードでの本時の振り返り。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前回の復習をする。</li> <li>●本時の学習課題を提示する。</li> <li>●前回、自分の立てた本時の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今回の題字のポイントを押さえながら書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●振り返りカードの活用</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●題字のポイントを押さえながら書く。</li> <li>●振り返りカードを記入する。</li> <li>●次回の学習課題を確認し、次回の目標を考える。</li> </ul>		
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本時の学習課題を提示する</li> <li>●前回、自分の立てた本時の目標を確認する。</li> <li>●前回書いた作品から自他の分析をする。</li> <li>●分析内容を元に改善点を意識しながら題字を書く。</li> <li>●振り返りカードを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前回書いた作品から自他の作品について分析している。</li> <li>●分析内容を元に改善点を意識しながら題字を書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性の視点</li> <li>●話し合い活動の設定</li> <li>●振り返りカードの活用</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本時の学習課題を提示する。</li> <li>●前回の内容を踏まえ、本時の目標を立てる。</li> <li>●題字ポイントや前回の分析内容を意識しながら題字を書く。</li> <li>●一枚提出する</li> <li>●振り返りカードを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●題字ポイントや前回の分析内容を意識しながら題字を書くことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●振り返りカードの活用</li> </ul>

## 8.本時の学習指導（3/4時）

### （1）目標

○漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる。【知識及び技能】（3）ウ（ア）、（1）ウ

○言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

### （2）評価規準

○漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書いている。【知識及び技能】

○進んで行書とそれに調和した仮名の書き方について考えながら、今までの学習を生かして題字を書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

### （2）展開

学習活動	○学習内容 ★「連携」の視点	指導上の留意点・評価	時
1.前回の授業の確認・個人目標の確認	○前回の内容の復習・個人目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前に用具の準備をさせる。</li> <li>・前回書いた作品を返却する。</li> <li>・前回の授業で提示した本時の目標と自分の目標を再確認する。</li> </ul>	5分

2.本時の活動内容を知る	<p>★【連携】          視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』          小学校の手立て          ⇨中学校国語における手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」</p> <p>本時の活動内容の確認</p>	<p>・プリントを使い、分析する内容を          確認する。前々回の授業で確認し          た書くためのポイントを再確認す          る。</p>	10 分
3.自他の作品を分析する。	<p>本時の目標（前回提示済）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆書いた字について、ポイントを押さえながら分析する。</li> <li>◆分析結果を元に、改善点を意識しながら書く。</li> </ul> <p>個人3分、グループ7分でポイントの部分の          書き方について分析する。</p>	<p>・ポイントに注目しながら自分の          作品の良い点・改善点を分析する。          ・事前に組んでいたグループの生          徒の作品の良い点・改善点を分析          し、プリントに記入して渡す。</p>	10 分
	<p>評価の視点・ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆それぞれの文字のバランス、ポイントを意識しているか。</li> <li>◆漢字の行書と仮名の調和を意識しているか。</li> <li>◆「強」と「い」、「い」と「信」のバランス、調和を見る</li> </ul>	<p>評価場面1  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>          ●話し合いの様子の観察、プリン          トの記入</p>	
4.改善点を意識しながら書く	<p>★【連携】          視点：主体性『子どもが楽しさを見出す学びの工夫』          小学校の手立て          ⇨中学校国語における手立て②「形成的評価の充実」</p> <p>分析内容を元に練習をする。</p>	<p>・自己分析とグループの生徒から          もらった分析を見て、改善点をま          とめる。          改善点を意識しながら、実際に作          品を書く。</p>	20 分
5.まとめ・片付け・振り返りカードの記入	<p>片付けが速く終わった生徒から振り返りカード          を記入する。</p>	<p>評価場面2  <b>【知識・技能】</b>          ●作品</p>	5 分

※題字のポイントについては、例年書写研究部より提示される指導資料を参考にこのあと作成します。

《授業について》

- ・ワークシートやICTを効果的に活用していた。
- ・分析シートの内容発表はなくてもよかった。時間的に厳しいので。
- ・前回のもの、分析シート、今回のものと3つ比較できる時間があるとよい。
- ・書き初めで振り返りをやるのは現実的ではない。やらなくてもよいかも。やらせるのであれば、今回の振り返りの内容を次回の授業に落としこむとより理解が深まる。
- ・筆の運びや実際に書いている様子をデモンストレーションするのもあり。（リトルティーチャーの活用など）
- ・生徒の言葉から今日の学習で学んだことをまとめ、共有できるとよい。

《指導案について》

- ・評価場面のところに「Cの生徒への手立て」を入れる。
- ・展開の「本時のまとめ」は「本時の目標」との正対性を持たせる。

《連携関連》

- ・今回使ったワークシートを簡略化して小学校でも使っていくと舟戸学園として継続的に指導していけるのではないか。



# 南中学校 国語科学習指導案

授業学級	第 3 学年 4 組
単元名	いにしえの心を受け継ぐ 夏草「おくのほそ道」から
授業者	春山 多紀理



## 第 3 学年 4 組 国語科学習指導案

令和 7 年 10 月 22 日 (水) 第 2 校時  
 生徒数 男子 20 名 女子 17 名 計 37 名  
 活動場所 3 年 4 組 教室  
 授業者 春山 多紀 理

1. 単元名・教材名 いにしえの心を受け継ぐ 夏草 — 「おくのほそ道」 から 1 (光村図書 3)

2. 生徒の実態と本単元の意図

本学年の生徒の特徴は、国語の授業に対して好意的に捉えている生徒が多いということである。昨年度、アンケートを実施した結果、国語の授業が「とても楽しい」「楽しい」と答えた生徒の合計が 82.4%、国語の授業が「とてもわかりやすい」「わかりやすい」と答えた生徒の合計は 85.6%、国語の授業が「とても役立つ」「役立つ」と答えた生徒の合計は 88.2% になった。また、本年度は舟戸学園連携研究テーマに即して、生徒自身が毎回の授業で目標を立てたり、話し合い活動で自分の意見を伝える機会を増やしたりすることで主体的に学ぶ機会を増やしている。今回取り扱う古典分野も「難しそう」「苦手です」と口に出してはいるが、10 月上旬に学習した「君待つと一万葉・古今・新古今」の学習を経て楽しみにしているようだ。「君待つと一万葉・古今・新古今」では、一人一人が和歌を一首担当し、「クラスの前で先生になったつもりで和歌を解説しよう」という活動を行った。自分が一つの和歌を調べ、みんなに解説することにより、古典常識や時代背景、語句の意味、表現技法など意欲的に学ぶことができ、新しい気づきも多かったようだ。そこで、その授業で学習したことを今回の授業でも生かしていくことで、主体的な学びにつなげ、卒業後も含めた今後の古典の学習に意欲を持たせたい。

3. 研究主題と具体的な取り組みについて

令和 6・7 年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は国語における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいの提示</li> <li>・話し合い活動の設定</li> <li>・発表(全体、小グループ)の場の設定</li> <li>・振り返りカードでの今日の振り返り、単元のまとめの記入</li> <li>・ノートやプリント、タブレットで自分の考えをまとめる活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の単元で学んだことの確認</li> <li>・自分の考えを書かせたあとの共有</li> <li>・単元毎の話し合い活動(隣、自由、小グループ)</li> </ul>

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の単元で学んだことの確認</li> <li>・単元毎の話し合い活動(隣、自由、小グループ)</li> <li>・まとめ方の手段の選択(ノート、タブレット)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードの活用</li> </ul>

#### 4. 単元の見どころ

- ① 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。【知識及び技能】〈言語文化〉(3)ア
- ② 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。【知識及び技能】〈言語文化〉(3)イ
- ③ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。【思考力・判断力・表現力等】C読む(1)イ
- ④ 言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の伝統文化に関わり、思いや考えを伝えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

#### 5. 単元計画と評価及び主題に迫る活動 (全4時間)

時	本時の目標・学習活動	目標を達成した子供の姿 (評価)	「主体性・多様性」の視点に基づく学習活動
1 ～ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の学習目標を立てる。</li> <li>● 「おくのほそ道」や松尾芭蕉についての基本的な知識を学ぶ。</li> <li>● 古典特有の表現やリズムに注意しながら音読する。</li> <li>● 「夏草」1の表現上の特徴を理解し、その効果について学ぶ。</li> <li>● 表現や芭蕉の行動で疑問に思ったことを書きだす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「おくのほそ道」や松尾芭蕉についての基本的な知識を学ぶことができた。</li> <li>● 歴史的仮名遣いの正しい読みができた。</li> <li>● 古典の音読のリズムに注意しながら音読できた。</li> <li>● 「夏草」1の表現の特徴を知ることができた。</li> <li>● 表現や芭蕉の行動で疑問に思ったことを書きだすことができた。</li> </ul>	多様性の視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ねらいの提示</li> <li>● 振り返りカードでの今日の振り返り。</li> </ul>
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の復習をする。</li> <li>● 自分の学習目標を立てる。</li> <li>● 疑問に思ったところを出し合いながら、芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。</li> <li>● 振り返りカード(学習カード)を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回までの内容の確認をすることができた。</li> <li>● 学習活動から自分なりに学習目標を立てることができた。</li> <li>● 自分や他の人の意見を聞きながら、芭蕉のものの見方や感じ方を読み取ることができた。</li> <li>● 本時の振り返りをすることができた。</li> </ul>	主体性の視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 話し合い活動</li> <li>● 振り返りカードの活用</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回の復習をする。</li> <li>● 自分の学習目標を立てる。</li> <li>● 現代の旅と芭蕉の旅の比較で学んだことを基に、前回出た疑問に対する自分の考えを書き、みんなで共有する。</li> <li>● 振り返りカード(学習カード)を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前回までの内容の確認をすることができた。</li> <li>● 学習活動から自分なりに学習目標を立てることができた。</li> <li>● 現代の自分と芭蕉との比較、自分や他の人の意見を聞きながら、芭蕉のものの見方や感じ方を読み取ることができた。</li> <li>● 本時の振り返りをすることができた。</li> </ul>	主体性の視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 話し合い活動</li> <li>● 振り返りカードの活用</li> </ul>

#### 6. 学習指導の展開 (3 / 4時の内容)

##### (1) 目標

- ① 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。【思考力・判断力・表現力等】C読む(1)イ
- ② 言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の伝統文化に関わり、思いや考えを伝えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 展開

学習活動	○学習内容 ★「連携」の視点	指導上の留意点・評価	時
1. 前回の授業の確認。 2. 本時の学習活動を知る。 3. 振り返りカード（学習カード）に本時の自分の目標を記入。	○前回の授業で学んだ内容の復習。 ○本時の学習活動の確認。 ◆ 疑問に思ったことを出し合う。 ◆ 芭蕉のものの見方や感じ方について考える。	・ 今回の授業に入りやすいように、前回まで学んだ内容の確認を行う。	5分
4. 「夏草」1の音読をする。	○正しい古文の音読の確認	・ 歴史的仮名遣いの読みの確認、リズムの確認を全員で行ったり、グループ音読したりすることで再確認する。	5分
5. グループで内容について、疑問に思ったこと、理解しづらいところ、みんなで深めたいところを出し合う。  6. グループで出した内容を全体で発表する。	○古典を読み深めるための視点 ★【連携】 視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』 小学校の手立て①② ⇔中学校国語における手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」	・ 前回は古文と口語訳の確認、語句の意味などを確認しているが、何故そのような表現を使っているか、表現の効果まではあえて深く解説をしていない。それを踏まえて、表現や芭蕉の行動で疑問を持ったところを書きだした。本時、班員で共有することにより、自分と同じ視点や別の視点を気づかせ、古典を読み深めることにつなげる。	5分  10分
7. 出た疑問を解決するために、現代の旅と芭蕉の旅を比較し、芭蕉のものの見方や感じ方を読み取り、次回につなげる。	○批判的な読みの実践 ○現代の旅と芭蕉にとっての旅の現代の人たちの旅に寄せる思いの比書くから捉える芭蕉のものの見方や感じ方	・ 改めて、現代の自分たちが旅行に行く感覚を再確認し、芭蕉の旅との違いを比較させ、芭蕉のものの見方や感じ方を味わいさせる。	20分
8. 本時の学習内容を振り返り、振り返りカード（学習カード）記入する。	○本時の内容の再確認 ○自己の目標に対する取り組み・学習態度・意欲の自覚と評価 【連携】 視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫』 小学校の手立て③ ⇔中学校国語の手立て②形成的評価の充実	・ 授業中に良かった点を取り上げ、褒める。  評価場面2 【学びに向かう力、人間性等】 ● 振り返りカードの記入の観察	5分

目的←	心配事←	時期・期間←	準備←	←
↑	↑	↑	↑	現代の旅 ↑
↑	↑	↑	↑	芭蕉の旅 ↑

■ 現在の旅と芭蕉の旅の比較↑

「夏草」「1」「おくのほそ道」「氏谷」

三年組 番↑

↑

●横田指導主事から ○は南中からの質問

○毎時間の個人目標を立てさせている。これは適切なのか

【デメリット】時間がかかる・単元の目標に沿っていない…

→個人目標は設定せずとも振り返りの中でみとれるのでは？

〈参考〉

振り返り等の記述内容としては、次のような項目が考えられる。

【振り返りの項目（例）】（参考 P71）

- ・ 本時（や本単元）の学習で意識したこと。
- ・ 本時（や本単元）で身に付いた力やできるようになったこと。
- ・ 本時（や本単元）で課題を解決するために試行錯誤したこと。
- ・ 前時までに学習したことで、本時の学習に役立ったこと。
- ・ 本時（や本単元）で工夫しようとしたが、十分ではなかったこと。
- ・ 本時（や本単元）で学習したことで、今後の学習や生活の中に生かせそうなこと。

振り返りの記入も、ポイントとなる時間と単元の最後に書かせるという点もある。

生徒・教員両方の負担軽減になるので検討してもよいのでは？

そのほうが生徒もしっかりと書くかも。

●振り返りの時間を増やす。また、発表させることで書いてよかった！と思えるようになる。

●まとめは教員と生徒、振り返りは生徒

●今年度「良い授業」をしている先生の共通点は辞書がでていること。

辞書を出すことが全てではないが、言葉を大切にしている印象。

●授業内の活動を個人→グループ→個人にできるようにする。

●指導案の書き方

「埼玉県中学校教育課程指導・評価資料」を参照する。

- ・ 単元の評価規準
- ・ Cの生徒への手立て
- ・ 期待される生徒の振り返り
- ・ まとめと振り返りはセットで書く。



# 南中学校

## 数学科学習指導案

授業学級	第 1 学年 4 組
单元名	方程式
授業者	東 一雄



# 第1学年4組 数学科学習指導案

日 時 令和7年10月23日(木) 第2校時  
生徒数 男子18名 女子 17名 計 35名  
活動場所 1年4組教室  
指導者 東 一雄

## 1 単元名 3章 方程式

## 2 単元について

### (1) 教材観

小学校では、数量の関係を線分図や関係図、表に表して捉え、それから演算を決定し、順にわからない数量を求めて、答えを求めている。しかしながら、数量の関係が複雑になると、小学校で学んだ考え方だけで問題を解くことは難しくなってくる。2章「文字の式」で学習した文字を使うことのよさを、この章の学習の中で生徒に実感させていかなければならない。既存既知の知識技術を十分に生かしながら、フィードバックを繰り返しながら新しい知識技術の習得をしていくという姿勢が大切であると考え。

### (2) 生徒の実態

明るく元気、素直で前向きな生徒が多いクラスである。授業も真剣に取り組む姿が毎回多くみられる。ただ学習が遅れがちであったり、切り替えがうまくできないために学習に必要な時間が十分確保できなくなり、理解も不十分になるという悪循環をたどる生徒も一部見られるため、「少なくとも始業のチャイムまでには3分計算練習をスタートする」「“静かに聴くとき”と“友達と意見を交わしながら、場合によっては教室内を出歩きながら課題解決に向かうとき”等の区別をきちんとさせる」などを意識して日々指導している。しかし苦手であっても学習に対する姿勢は前向きなので、そこを十分に生かしてあげられるようにしていく。

### (3) 指導観

前章で学習した文字を使えば、数量の関係を等式に表すことができる。そして、その文字の値を(等式の変形に伴う)計算で求めることによって、問題を解決していくことができる。このように中学校では文字を使って立式して解くという順思考に移行していく。方程式を(作って)解くことができれば、いわば流れ作業になることのよさを十分に伝えていけるようにする。そのためにも、 $(-) + (-) = (-)$ 、 $(-) \times (-) = (+)$ などの区別、分配法則において( )の中のですべての項に掛け算を行うことなどの第1章2章の知識技術が不十分な生徒もまだいるため、授業の中で逐一振り返りながら、机間指導等を重ねていく。

## 3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は数学における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実」
数学	「問題解決のための手立てを自分で考える場面の設定」 「振り返りを通して自分の考えを整理する場面の設定」	「自分の考えを表現したり、他の人の考えを聞く話し合い活動」

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
数学	「身近な題材設定」 「多様なプロセスが生まれる題材の設定」 「生徒の疑問を生かした発問」	「単元途中での小テストの実施」 「授業内の声掛け」 「振り返りの実施」

#### 4 単元の目標

- (1) ・方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解することができる。  
 ・簡単な方程式、比例式を解くことができる。 <知識及び技能>
- (2) ・等式の性質を基にして、方程式を解く方法を考察し表現することができる。  
 ・方程式、比例式を具体的な場面で活用することができる。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) ・方程式のよさに気づいて粘り強く考え、方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとするところができる。  
 <学びに向かう力、人間力等>

#### 5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1 2 3 4	方程式とその解の意味、方程式を解くことの意味を理解する。等式の性質を知り、それをを用いて方程式を解くことができる。	「解く」と「解を求める」ことの違いを知り、等式の性質を使って方程式を解くことができている。	<u>主体性</u> 方程式の必要性と意味を考える活動。等式の性質を使って方程式を正しく説く活動。
5 6 7 8	移項の意味を知り、移項して方程式を解くことができる。一次方程式の意味を知り、解く手順について理解する。	正しく移項して一次方程式を解くことができている。	<u>多様性</u> 移項を使った解き方も、等式の性質を利用した解き方と同様であることを理解する活動。
9	比例式とそれを解くことの意味を知る。比例式の性質を知り、それをを用いて比例式を解くことができる。	比例式の性質を用いて、比例式を解くことができる。	<u>主体性</u> <u>多様性</u> 比例式の性質を用いて比例式を解く活動。比例式の性質だけでなく、比の性質を使って解く活動。

10 11 12 13 14	身の回りの事象・問題を方程式を使って解決することができる。解の吟味ができ、方程式を使って問題を解く手順について理解できる。	様々な場面設定で、方程式を使って問題を解決することができる。	<b>主体性</b> <b>多様性</b> 方程式について学んだことを生かそうとする活動。様々な解決手法について知り、それぞれの良さについて知る活動。
15	比例式を利用して、問題を解くことができる。	比例式を利用して、問題を解決することができる。	<b>多様性</b> 比例式を利用すること以外にも、問題を解決する方法を探る活動。
16 17	単元の学びを確かめて、身につけることができる。	振り返りを記述し、学んだ内容を今後の生活に生かせるかもしれないという意識を持とうとする。	<b>主体性</b> 方程式・比例式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする活動
18	単元の学びを生かして、問題を解決できる。	方程式等を用いて、課題の解決ができています。	<b>主体性</b> <b>多様性</b> 方程式を用いて問題を解決しようとするとともに、他の解決方法についても模索していく活動

## 6 本時の学習指導（18／18時）

### （1）本時の目標

- ・方程式を具体的な場面で活用することができる。＜思考・判断・表現＞
- ・方程式のよさに気づき、方程式について学んだことを生かそうとしている。  
＜主体的に学習に取り組む態度＞
- ・様々な解法を試みようとしている。  
＜主体的に学習に取り組む態度＞

### （2）展開（★「連携」の視点は別紙参照）

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
練習 5分	チャイムと同時に3分の計算練習をスタートさせる。		
導入 5分	<p>（問題） ディオファントスの生きた年数(何歳まで生きたか)を求めてみよう。 何通りかの方法を考えてみましょう。</p> <p>・個で考える。</p>		
	<p>（課題） 周りの人たちと意見を出し合って、たくさんの方法を探ってみましょう。 また、それぞれの方法のメリット・デメリットについても確認してみましょう。</p>		

<p>展 開 30 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考える。</li> <li>・グループ内外で複数の手法を知る。</li> <li>・問題解決を図る。</li> <li>・自分の解き方を黒板で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内外で意見を出し合い、多くの方法を模索する。</li> <li>★自分の考えを表現する話し合い活動の充実</li> <li>・線分図、方程式、最小公倍数の考え方を駆使して、問題解決を図る。</li> <li>○ディオファントスの一生は84年であったことを理解する。</li> <li>・何通りもの解き方があることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を行う。</li> <li>◇方程式を具体的な場面で活用することができるか。〈思・判・表〉 (行動観察・プリント)</li> <li>◇方程式について学んだことを学習に生かそうとしている。〈主体的〉 (行動観察・プリント)</li> <li>◇様々な方法を試みようとしているか。〈主体的〉 (行動観察・プリント)</li> </ul>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>(まとめ) 何通りの求め方ができたか、また、それぞれの解き方のメリット・デメリットを確認してみましょう。</p> <p>方程式→メリット：(慣れれば) 文章を読みながら式をつくれる。 デメリット：作った方程式を解くのが大変。</p> <p>最小公倍数による考え方→メリット：計算が簡単で済む。 デメリット：思いつきにくい。うまくいくかどうかわからない。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜問題練習を行う。</li> <li>・振り返りシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★振り返りを通して、自分の考えを整理する場面の設定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇それぞれの解法の良さを実感しているか。</li> <li>〈主体的〉 (行動観察・プリント・振り返りシート)</li> </ul>

- クラスのみんが一生懸命課題に取り組んでいるのが何より良かった。
- 様々な手法を試みようとしていた。
- 複数人数での学習が活発に行われていた。

△最初の3分計算プリント練習はなくてもよかった。

(次回の二階堂先生の授業ではやらないことを告げると、安心した様子でした。

時間のロスの的な感じでおっしゃっていました)

△課題提示後すぐにグループ学習に入ってしまったので、その前に個で考える時間がちゃんと欲しかった

(これは授業者もすぐに気付きました。「ああ、やってしまった」と)

△発表の仕方(させ方)に工夫があってもよかった。

△なかなか進まなくて困っている生徒への手立て・工夫がもっと欲しかった。

△より多様な解決方法が出てくるような課題設定が必要だったかもしれない。

本発表に向けて

興味関心を引く題材を選んでいくこと。

多様な考えが生まれる題材であること。

研究テーマに沿った題材を考えていくこと。



# 南中学校 数学科学习指导案

授業学級	第 2 学年 1 組
单元名	一次関数
授業者	鈴木 伴美



## 第2学年1組 数学科学習指導案

日 時 令和7年10月9日(木) 第2校時  
 生徒数 男子21名 女子20名 計 41名  
 活動場所 2年1組教室  
 指導者 鈴木 伴美

### 1 単元名 一次関数

#### 2 単元について

##### (1) 教材観

社会事象の中には、関数関係として捉えるものが多く存在する。前時までに、一次関数の表・式・グラフについて学習したことを踏まえ、ここでは社会事象の一つを一次関数の既習事項を用い、考察し表現する。

##### (2) 生徒の実態

本学級の生徒は学習意欲が高く、平均学力も高い。一方で、関数に苦手意識を持つ生徒も多くいる。学力差が激しく、個に応じた指導が必要である。

##### (3) 指導観

事象をどのように捉え、数学の対象にするのかを明確にした上で、数学的に表現した問題を見いだすことが求められる。その上で問題を解決する際には、目的や個に応じて表、式、グラフを適切に選択し適格に表現するかを指導していく。

### 3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

### 4 単元の目標

- (1)・一次関数について理解することができる。
  - ・事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解することができる。
  - ・二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。〈知識及び技能〉
- (2)・一次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現することができる。
  - ・一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。〈思考力、判断力、表現力〉
- (3)・一次関数のよさを実感して粘り強く考え、一次関数について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、一次関数を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたりすることができる。〈学びに向かう力、人間性等〉

### 5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の視点に基づく学習活動
1 2	事象の中に一次関数としてとらえられるものがあることを知り、具体的な事象の考察を通して一次関数の意味を理解する。	ノートに一次関数の式を表している。	<b>主体性</b> 具体的な事象の中から一次関数として捉えられる2つの数量を見出したり、その関係を式で表したりしようとする活動。
3 4	変化の割合の意味を理解し、一次関数と一次関数以外の関数の変化の割合について調べる。	変化の割合を求めている。	<b>多様性</b> いくつかの一次関数で変化の割合を求めることによって、一次関数の変化の割合は一定

			であり、また関数の中には変化の割合が一定ではないものがあることを知る活動
5 6 7 8	一次関数のグラフと比例のグラフとの関係を理解し、傾きと切片から2点を求めて一次関数のグラフをかくことができる。	一次関数の式をもとに、方眼用紙に一次関数を書いている。	<b>主体性</b> 一次関数のグラフの特徴を、表や式、変化の割合と関連づけて考えようとする活動
9 10 11	グラフ・傾き・切片などの与えられた条件から、関数の式を求めていくことができる。	与えられた条件から、表やグラフを考え、式に表している。	<b>多様性</b> 一次関数の式を与えられた条件から求める方法を、表、式、グラフを相互に関連づける活動
12 13	二元一次方程式の解の値の組を座標とする点を示した図からどのようなことがわかるかを考えることができる。	二元一次方程式のグラフを考察し、一次関数との関係につなげる。	<b>主体性</b> 二元一次方程式の解と一次関数のグラフの関係について考える活動
14	連立方程式の解とそのグラフの交点の座標との関係についてグラフを利用して求めたり、連立方程式を解いて求めることができる。	連立方程式の解をグラフから求めている姿。また、連立方程式を解くことにより、グラフの交点を求めている。	<b>主体性</b> 連立方程式の解の意味について、一次関数と方程式のグラフとの関係から考える活動
15 16 17	身の回りの場面から、問題を設定し、一次関数を利用して問題を解決することができる。	一次関数を学習した過程を振り返って、表・式・グラフを用い、問題解決に取り組んでいる。	<b>主体性</b> 一次関数について学んだことを生活や学習にいかそうとする活動
18	単元の学びを確かめることができる。	振り返りを記述し、学んだ内容を今後の生活に活かせるかもしれないという意識を持つようとする。	一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする活動

## 6 本時の学習指導（16／18時）

### （1）本時の目標

- ・具体的な事象の中から取り出した2つの数量の関係を、理想化したり単純化したりして一次関数とみなし、変化や対応の様子を調べたり、予測したりすることができる。＜思考・判断・表現＞
- ・一次関数について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。＜主体的に学習に取り組む態度＞

### （2）展開（★「連携」の視点は指導案綴りP〇〇を参照）

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
----	------	--------------------------	--------------------

導 入	・「敬老パス」につ いて考える。		
10 分	問題 おばあちゃんに「敬老パス」を申請すべきか、一次関数で習ったことを使ってアドバイ スしましょう。		
	・個で考える		
展 開	課題 表・式・グラフはどのように使い分ければ良いだろうか。		
30 分	・グループで考える A:表で表現する B:式で表現する C:グラフで表現する	○グループ内で表・式・グラフを選択し、 問題解決を行う。 ★自分の考えを表現する話し合い活動の充 実	・机間巡視を行う。 ◇一次関数とみなし、変化 の対応を調べているか <思・判・表> (行動観察・プリント)
	・それぞれのグルー プに戻り、わかった ことを共有する	○表・式・グラフのそれぞれの考え方で問 題解決を行う。 ★問題解決の手立てを考える。	・机間巡視を行う。
	・問題解決を行う	・「敬老パス」は19回以上使うとお得になる	・机間巡視を行う。 ◇一次関数を生活や学習に 活かしているか。<主体的> (行動観察・プリント)
ま と め 10 分	・表、式、グラフは それぞれどのような ところが良いかを振 り返る	○表、式、グラフの良さをまとめる。 ・表は簡単。具体的にわかる。 ・グラフは視覚的にわかるね。 ・式は難しいけど、ピンポイントに値が欲 しいときに便利だね。	
	まとめ 表・式・グラフがどんな場面で活用すべきかを記述する。 表 →規則をつかみやすいからわかりやすい。 式 →ピンポイントに値がわかる。 グラフ→視覚的にわかりやすい。		
	・適応問題を行う	★振り返りを通して自分の考えを整理する 場面の設定。	

- パワーポイントに中国語の字幕があった。  
これは南中学校での取組？小学校でも実施してほしい。小中で連携してほしい。
- 問題から課題の流れがスムーズだった。
- 中学校の関数の学習は表・式・グラフで表すこと。この授業を小学校の先生に見ていた  
だくことによって、小学校でも表・式・グラフを意識した指導になるとよい。
- 題材が身近な問題で面白い。興味関心を引くものだった。生活上の題材なのが良い。
- まとめの内容が、数学的な見方考え方に繋がるものだった。
- 生徒が説明することを通して、理解を深める活動があった。

△課題提示は生徒の発言から提示できる流れだったのではないか。

△ジグソー法は一長一短である。主体性を研究テーマにするのであれば、少し違う？  
でも、関数だからありなのか？

△表で考える生徒が、式の良さを見出して、式で求めていた。自分で解きたい内容が選択  
できていなかったか。

△時間を確保するために、生徒に板書させる場面を増やす工夫もある。  
→そのためには、ジグソー法ではなかった？

△

本発表にむけて

☆興味関心を引く題材を選んでいくこと。 ☆多様な考えが生まれる題材であること。  
研究テーマに沿った題材を考えていくことが必要。

# 南中学校 英語科学習指導案

授業学級	第 1 学年 3 組
单元名	Unit 6 Cheer Up, Tina Goal
授業者	松崎 拓真

※指導は笹木舜都先生と合わせて頂いております。



# 第1学年3組 英語科学習指導案

日 時 令和7年10月2日(木) 第3校時  
生徒数 男子17名 女子17名 計34名  
活動場所 1年3組教室  
指導者 松崎 拓真

## 1 単元名 Unit 6 Cheer Up, Tina Goal

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本教材は、いつも元気な姉の Tina が、最近静かで様子がおかしいと心配する家族とそれを心配する祖父母とのビデオ通話で Tina の様子について話す場面の中で、「三人称単数現在形」を扱った単元である。また Goal では身近な人の紹介文を読んだり、書いたりすることで本単元での文法事項の理解と表現の目標に対する達成度を確かめることができる。

#### (2) 生徒の実態

本学級の生徒は、1学年らしく英語でのコミュニケーション活動に元気よく取り組む生徒が多い一方、全体の前での発表を苦手とする生徒もいる。基礎的な英単語や英文法に関する基礎的な知識の高さは感じるが、実際に教師のクラスルームイングリッシュを聞きとり理解する、自分のことを思い通りに話すという実践的な技能への結びつきが弱いと感じる。

#### (3) 指導観

身近な人物の様子を説明する本文の場面を通して、自分と相手以外の人ができること・しないことを伝えたりたずねたりすることを理解させる。また、活動の中で伝えたいことをわかりやすくするために、具体的な情報や自分の気持ちなどを付け加えることなどを意識させ、Goal の「友達のすてきなところを紹介しよう」の活動につなげたい。

## 3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

## 4 単元の目標

・身近な人を紹介する文章を読み、おおまかな内容を捉えることができる。

(読むこと) 【思考・判断・表現】

・自分の憧れの人がほかの人に興味を持ってもらえるような紹介文を書くことができる。

(書くこと) 【思考・判断・表現】

・自分の憧れの人がほかの人に興味を持ってもらえるようなスピーチすることができる。

(話すこと) 【思考・判断・表現】

5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1	Round1 ・ピクチャーカード並び替えによる本文の内容理解 ・本文のシャドウイング	本文を聞いて、おおまかな内容を理解したり、英語の音声をまねしたりして言うことができる。	<u>主体性・多様性</u> ・帯活動において個人についての発表や友人について知ることなどの英語でのコミュニケーションを行う。
2	Round2 ・文章の並び替えによる音と文字の一致	本文を聞いて、どの文章が話されているかを選択することができる。	
3	Round3 ・単語及び本文の音読	三人称単数現在形の意味、形、使い方を理解している。 自分と相手以外の人ができること・しないことを伝えたり、たずねたりすることができる。	
4	・なりきり音読		
5	・文法項目の導入		
6	・身近な人を紹介する文章を読み、おおまかな内容を捉えることができる。(読むこと)【思考・判断・表現】 ・自分の憧れの人がほかの人に興味を持ってもらえるような紹介文を書くことができる。	紹介する憧れの人を設定し、伝える内容を整理し、紹介文を書くことができる。	<u>主体性</u> 書くこと及びスピーチのテーマ設定において、憧れの人を選択させ、紹介文を作成し、スピーチを完成させる。
7	・自分の憧れの人がほかの人に興味を持ってもらえるような紹介文を書くことができる。(書くこと)【思考・判断・表現】	発表とフィードバックを通し、紹介文の情報を取捨選択したり、友人の紹介文の良いところを取り入れたりすることで自分の紹介文をより良いものにすることができる。	<u>多様性</u> 紹介文を小グループで発表、フィードバックし合う。フィードバックから聴き手の知りたいことや疑問を伝え合うことで、紹介文の発表の仕方や内容を改善する。
8	・自分の憧れの人について興味を持ってもらえるようなスピーチすることができる。(話すこと)【思考・判断・表現】	自分の憧れの人について興味を持ってもらえるようなスピーチすることができる。	<u>主体性・多様性</u> 自分の憧れの人についてスピーチをする。
9	Round 4 穴あき音読による単語、内容項目、文法事項の復習	単語の発音・つづり・意味、文法項目を理解し、音読することができる。	
10			
11	Round5 リテリング	物語のおおまかな内容を自分のインプットした表現を用いて説明することができる。	<u>多様性</u> ペアやグループでの発表から自分の表現をの幅をより広げることができる。
12			

6 本時の学習指導（7 / 12時）

本時の目標

- ・自分の好きな人がほかの人に興味を持ってもらえるような紹介文を書くことができる。

（書くこと）【思考・判断・表現】

(2) 準備

- ・前時に1度目の「憧れの人」について紹介文の作成
- ・クラスルームイングリッシュの補助となる視覚教材のスライド

(3) 展開（★「連携」の視点：別紙参照）

過程	学習内容	○学習活動 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点 【 】評価の観点
導入 20分	1 あいさつ  2 帯活動 Small Talk &Write（20分） 教科書 Let's Talk  ①会話活動（ペア） （各1分×2） 振り返り（1分） ②書く活動（個人） （4分） ③エラーコレクト （5分）	Let's Talk（This is Me!） ★ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">多様性の視点</span> <u>多様な価値観に触れる「協働的な学び」の工夫・充実</u>  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">英語科の手立て①②</span>  ○S-S 英語での会話活動を行う。 ・S1: What sports do you like? S2: I like soccer. ○会話した相手について英作文を作成する。 ・He like soccer. He is in the soccer club. ○三人称単数現在形のs,esについて学習する。	・モデルを示し、英語での指示や学習内容を生徒が理解しやすいようにする。  ・中間指導で表現を広げる。  ・文法の説明にこだわりすぎない。
展開 25分	3 本時の目標の提示  Goal 教科書 pp.92-93  4 紹介文の発表とフ	教科書 pp.92-93  <span style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">紹介文を発表し合い、「憧れの人」についてもっと伝わるスピーチを作成しよう</span>  ○前時作成した紹介文の音読、スピーチを練習する。 ○生徒は視覚的補助となるパワーポイントを用意する。  ○T-SS で教師がデモを行い、生徒からフィードバックをもらう。	・モデルを示し、英語での指示や学習内容を生徒が理

	<p>フィードバック（グループ）（各4分×4）</p> <p>5 自分の紹介文の見直しと推敲（7分）</p>	<p>○4人の小グループでスピーチを行う。</p> <p>★<b>多様性の視点</b> 多様な価値観に触れる「協働的な学び」の工夫・充実</p> <p><b>英語科の手立て①②</b></p> <p>○口頭での意見交換やフィードバックシートの交換から自分や友人の発表の良さを認めたり、表現を真似したり、改善点を考えたりする。</p> <p>○小グループでの発表でのフィードバックを基に紹介文の内容やスピーチの態度を改善する。</p>	<p>解しやすいようにする。</p> <p>・机間指導とグループへの中間指導を行い、表現を広げさせる。</p> <p>◇情報の取捨選択を行い、聴き手に「自分の憧れの人」に対する興味を惹く紹介文を書くことができる。〈ワークシート〉（書くこと）【思考・判断・表現】</p> <p>※次時〈スピーチテスト〉（話すこと）【思考・判断・表現】</p>
<p>まとめ 3分</p>	<p>6 授業の振り返り</p> <p>7 あいさつ</p>	<p>○ワークシートに本日の振り返りを記入する。</p>	

7 板書計画

<p>Thursday October 2nd sunny</p>	<p>This is Me! About my friends</p>	<p>Unit 6 Cheer Up, Tina Goal</p> <p><b>Today's Goal</b> 紹介文を発表し合い、「憧れの人」についてもっと伝わるスピーチを作成しよう</p>
---	---	---

# 南中学校 英語科学習指導案

授業学級	第 3 学年 2 組
単元名	Unit 2 Our School Trip Goal
授業者	笹木 舜都

※指導は松崎拓真先生と合わせて頂いております。



## 第3学年2組 外国語科学習指導案

日 時 令和7年10月2日(木) 第2校時  
生徒数 男子20名 女子17名 計 37名  
活動場所 3年2組教室  
指導者 笹木 舜都

### 1 単元名 Unit2 Our School Trip Goal

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本教材は、「修学旅行」をテーマに扱った単元である。修学旅行での自由行動する本文の場面の中で、登場人物たちの行動が終わっていることを表現する現在完了形の完了用法や経験用法を理解させ、自由行動中に起きた出来事などを読み取らせていく。

#### (2) 生徒の実態

本校の生徒は、学習に対する意欲の高い生徒が多い一方、相手の意見を踏まえて話すことに苦手意識を感じる生徒も存在する。また、英語力に関してもばらつきがあり、実用英語検定3級～2級取得者と2年時のGTECにおいてスコアCEFR-J PreA1.1の生徒が混在している。また、2年次やUnit1で学んだ受動態を通して、現在完了形で用いる過去分詞を学習しており、3年次でも単語テストでの確認や帯活動で使う場面を設定することで、過去分詞を復習している。

#### (3) 指導観

帯活動では相手に伝える必然性を生み出すことで、相手意識を重視した表現を学ばせたい。帯活動や言語活動での成功体験やフィードバックを通して、主体的に行動する基盤や相手の意見を尊重し理解する多様性の基盤を形成させることが狙いである。また、本単元では友達と意見を交わし、修学旅行のコースを決めることを目標としている。自分の伝えたい内容を伝えるために、文構造のみではなくジェスチャーなどを正しく活用することや、相手の意見や話の内容をつかむための指導を帯活動で実践している。

### 3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

#### 4 単元の目標

- ・プレゼンテーションを聞いて、話し手のコースの要点を捉えることができる。

(聞くこと)【思考・判断・表現】

- ・自分の修学旅行の思い出やコースの良さを、伝えることができる。

(話すこと)【思考・判断・表現】

#### 5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1	Round 1 ・ピクチャーカード並び替えによる本文の内容理解 ・本文のシャドウイング	本文を聞いて、おおまかな内容を理解したり、英語の音声をまねしたりして言うことができる。	
2	Round 2 ・文章の並び替えによる音と文字の一致	本文を聞いて、どの文章が話されているかを選択することができる。	<b>主体性・多様性</b> ・帯活動において英語でのやりとりなどのコミュニケーションを行う。
3, 4, 5	Round 3 ・単語及び本文の音読 ・なりきり音読 ・文法項目の導入 ・Reading Progress	現在完了形の経験・完了用法の意味・形・使い方を理解できる。	
6	・修学旅行のコースを紹介する英語を聞き、内容を捉えることができる。(聞くこと) 【思考・判断・表現】 ・自分の思い出やコースの良さが伝わるように、コースの紹介文を書くことができる。(書くこと)【思考・判断・表現】	自分が参加した修学旅行のコースを分析し、伝える内容を整理し、自分の意見を書くことができる。【思考・判断・表現】	<b>主体性の視点</b> 書くことにおいて、自分の思い出やコースを紹介するのに適した表現を選択させ、自分の行ったコースの紹介文を完成させる。
7	・自分のグループの人から興味を持ってもらえるように、自分の希望するコースの意見を書くことができる。(書くこと) 【思考・判断・表現】	発表練習とフィードバックを通し、コース紹介の情報を取捨選択したり、友人のプレゼンテーションの良いところを取り入れたりすることで自分の意見をより良いものにすることができる。【思考・判断・表現】	<b>多様性の視点</b> プレゼンテーションを小グループで発表、フィードバックし合う。フィードバックから聴き手の感じ方や疑問を伝え合うことで、意見の発表の仕方や内容を改善する。
8	・自分の体験したコースの良さが伝わるようなプレゼンテーションができる。(話すこと)【思考・判断・表現】	グループメンバーの思い出を聞きあいながら、お互いのコースの良さを理解できる。	<b>多様性の視点</b> 友人の紹介を聞き、グループメンバーの修学旅行のコースの良さを理解する。

9 10	Round 4 穴あき音読による単語、内容項目、文法事項の復習	単語の発音・つづり・意味、文法項目を理解し、音読することができる。	
11 12	Round5 リテリング	物語のおおまかな内容を自分のインプットした表現や自分で考えた表現を用いて説明することができる。	<b>多様性</b> ペアやグループでの発表から自分の表現の幅をより広げることができる。

6 本時の学習指導（7 / 12時）

(1) 本時の目標

- ・自分が経験した修学旅行のコースの良さが伝わるような紹介文を書くことができる。

(書くこと)【思考・判断・表現】

(2) 準備

- ・前時に1度目の修学旅行コースについてプレゼンテーションの作成

(3) 展開 (★「連携」の視点は別紙参照)

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
導 入 15 分	1 Greeting  2 帯活動 1) Singing (5分)  2) 30seconds quiz (5分) パートナーにトピック名を使わずに英語で説明する。	○One Direction の「What Makes You Beautiful」を歌って、英語の発音のリズムや音の連結を学ぶ。  ○文化や慣習など身近なトピックを相手に伝わるように英語で説明する・聞くことで、表現の多様性やコミュニケーションにおける協働性（ジェスチャーなど）について学ぶ。(SS ペア)  ・It is ～. ・You can ～. ★ <b>多様性の視点</b> <u>多様な価値観に触れる「協働的な学び」の工夫・充実</u>	・既習事項から使える表現を紹介する。
展 開 35 分	3 本時の目標 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;">意見を聞きあい紹介文をアップデートしよう！</div> 4 小グループで意見の練習・フィードバック（発表2分+質問・FB3分：計5分×4人）	○第6時で考えたコースのプレゼンテーションを練習する。 ○4人の小グループで、発表→フィードバックの順で行う。	◇フィードバックを行っている。 【主体的に学習に取り組む態度】〈観察〉

	<p>5 フィードバックを受けて自身のプレゼンテーションを直す (10分)</p>	<p>★<u>多様性の視点</u> <u>多様な価値観に触れる「協働的な学び」の工夫・充実</u></p> <p>○Speaker: ジェスチャーや相手の反応などの相手意識を持って行う。 ○Listener: 意見の内容を読み取り、内容面と話し方の両面からフィードバックを行う。</p> <p>○意見文の内容と話し方等を改善する。</p>	<p>・机間指導を行い、グループ内フィードバックが活発になるように指導する。</p> <p>◇友人の意見を参考に、自身の意見文の内容や話し方を改善することができる (ワークシート) <b>【思考・判断・表現】</b></p>
--	---	---	--

7 板書計画

<p>Thursday, October 2<sup>nd</sup>, Sunny &amp; Warm</p>	
<p>◎意見を聞きあい紹介文をアップデートしよう!</p>	
<p>30seconds quiz 例文・表現紹介</p>	<p>修学旅行コース紹介例文・表現 Ex) It was built in ~. I' m 形容詞 to 動詞の原形 Reaction・Response・Eye contact</p>

## 英語科 指導内容（早水指導主事）

- ・ 内容が盛りだくさんで難しい  
→ 歴史や成り立ちなども紹介しようとする。
- ・ 話すことと書くことをつながり
- ・ 社会的興味のあるトピックを
- ・ 自分の言いたいように言えるような目的・場面・状況を
- ・ 教師からの問いかけが大事  
→ 5 W1H を黒板に貼り、TS トークでたくさん使って問いかけ→SS トークで子どもたちが使えるように
- ・ Repeat のクセを教員がつける（エラーコレクトも含めて）
- ・ 正しくやる経験ではなく、子どものやりたい気持ちにフォーカスしてレディネスを高める。
- ・ 海外に出てみたいという興味を



# 南中学校 理科学習指導案

授業学級	第 1 学年 4 組
単元名	身のまわりの現象
授業者	竹谷 亮祐



# 第1学年4組 理科学習指導案

日 時 令和7年10月7日(火) 第2校時  
 生徒数 男子18名 女子17名 計35名  
 活動場所 第2理科室  
 指導者 竹谷 亮祐

## 1 単元名 「単元3 身のまわりの現象」

## 2 単元について

### (1) 教材観

「身のまわりの現象」で扱う光・音・力などは、生徒の日常生活と密接にかかわる題材である。影の生成や音の反射、物体の運動といった現象は体験的に理解しやすく、科学的な見方・考え方を育成する格好の教材となる。また、簡単な実験を通じて因果関係や規則性を捉える活動は、生徒に科学的探究の基礎を培うことができる。さらに、現象を数量的に表現する活動を重視することで、抽象的な概念理解や今後の理科学習につながる基盤を形成できる。

### (2) 生徒の実態

本学級の生徒は、一部に活発に意見を発表する姿も見られるが、多くは受け身の学習態度が目立つ。特に理科学習では、誤答を恐れて自分の考えを述べることをためらい、正解が提示されるのを待つ傾向がある。そのため、観察や実験の結果をもとに自ら考察をまとめることに課題がある。一方で、調べ学習など自分で情報を収集する活動には意欲的に取り組み、探求心を発揮する姿が見られる。

### (3) 指導観

本単元では、生徒が「なぜ」という疑問をもち、実験や観察を通して仮説を立て、結果をもとに考察する探究的な学習を重視する。また、グループでの活動を通じて多様な考えを交流し、互いに納得できる解を見いだす過程を大切にする。教師は答えを与えるのではなく、思考を深めるための支援を行い、知識を生活場面に活用する学びにつなげる。さらに、最後まで実験をやり遂げる態度や安全への配慮を評価し、主体的に学ぶ姿勢を育成する。

## 3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は理科における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実」
理科	・視覚的な問いの提示	・仮説、考察の共有の時間の充実

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
理科	・単元の導入における、日常から生まれる疑問の視覚化	・単元の中でのルーブリック、振り返り

#### 4 単元の目標

- ・光や音、力についての観察・実験などを行い、身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付ける。(知識及び技能)
- ・身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察・実験などを行い、その結果を分析して、光の反射や屈折、凸レンズのはたらき、音の性質、力のはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現できる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・光や音、力についての事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(学びに向かう力、人間性等)

#### 5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

##### 第1章 光の世界

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1・2	様々な光の現象について、問題を見つけ、レポートを書き、光への興味・関心を高める。	まだ学習していない光の現象について、自分なりに考え理解し、自分の言葉で表現することができている。	<u>主体性の視点</u> 日常生活の中で見られる疑問(視覚的な教材:鏡の見え方、水を通した見え方、プロジェクターの仕組み)から問題を見いだす。
3	日常生活と関連付けながら、ものの見え方について説明できる。	ものが見える原理を「光源」「反射」という言葉を用いて説明することができ、その知識を用いて影ができる理由について考えることができる。	<u>多様性の視点</u> 影ができる理由について、自ら考え、その考えを共有する。
4	光の反射の実験を通して、実験の技能を身につけるとともに、光の反射の規則性を見いだす。	鏡に入射する光の角度が大きくなるほど、反射する光の角度が大きくなることに気づき、光源装置の位置を調節しながらその規則性を見いだそうとしている。	<u>多様性の視点</u> 班での実験を行い、仮説や考察について話し合い考えを深める。
5	光の反射の法則を用いて、鏡の見え方について説明・表現できる。	鏡から見えていないはずの物体が、角度をつけることで見えるようになることを反射の法則を用いて図を用いながら説明することができる。	<u>主体性の視点</u> 日常生活の中で見られる疑問(鏡の見え方)について、知識を利用して自ら考える。
6	光の屈折の実験を通して、実験の技能を身につけるとともに、光の屈折の規則性を見いだす。	ガラスに入射された光が境界面で曲がることに気づき、入射角に対してどのように曲がるかを見いだそうとしている。	<u>多様性の視点</u> 班での実験を行い、仮説や考察について話し合い考えを深める。
7 本時	光の屈折の規則性を用いて、水を介すときと介さないときのもの見え方について説明・表現できる。	光の屈折によって目に入ってくる光が、本来の光とずれることから、水を通して物体を見たときに位置が違うように見えることを、屈折の決まり	<u>主体性の視点</u> 日常生活の中で見られる疑問(水を通した見え方)について、知識を利用して自ら考える。

		や図を用いて説明できる。	
8	凸レンズの実験を通して、実験の技能を身につけるとともに、凸レンズと像の関係を見いだす。	凸レンズの位置やスクリーンの位置を動かすことで像をスクリーンに映すことができることに気づき、映る大きさや距離について規則性を見いだそうとしている。	<u>多様性の視点</u> 班での実験を行い、仮説や考察について話し合い考えを深める。
9	凸レンズと像の関係から、どのような像ができるか作図することができる。	物体から出ている「光軸に平行な光」「焦点を通る光」「凸レンズの中心を通る光」の進み方を利用し、スクリーンに映る実像やレンズを通してみられる虚像を正確に作図することができる。	<u>主体性の視点</u> 凸レンズのつくる像について、屈折の決まりを利用して作図するとともに、日常生活と関連付けながらできる像が正しいかを考える。
10	凸レンズと像の関係を用いて、プロジェクターやの原理について説明できる。	プロジェクターがレンズを通して映し出されたものであることを知り、拡大して映像が見られる仕組みを実像の作図を利用して説明することができる。	<u>主体性の視点</u> 日常生活の中で見られる疑問（プロジェクターの仕組み）について、知識を利用して自ら考える。 また、光の単元について自己評価を行う。

第2章 音の世界 5時間

第3章 力の世界 8時間

6 本時の学習指導（7 / 10時）

(1) 本時の目標

- ・光の屈折を用いて、チョークが見えなくなる現象について説明できる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・班での話し合い活動や実験を通して、課題解決に主体的に取り組み、自分の意見を持つことができる。(学びに向かう力、人間性)

(2) 準備

- ・課題動画 ・光源装置 ・ガラスキューブ

(3) 展開 (★「連携」の視点は別紙を参照)

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
導入 7分	<p>課題となる動画を視聴し、問題を見いだす活動。</p> <p>課題を設定する。</p> <p>例：水槽に水を入れるとどうして見えていたものが見えなくなるのだろうか。</p> <p>屈折の説明を聞く。</p>	<p>○水槽の奥にあるチョークが水を入れることでずれて見える動画を視聴し、屈折が関係していることを見出す。</p> <p>○光は違う層に入るとき屈折する。 ○空気→水「入射角&gt;屈折角」 ○水→空気「屈折角&gt;入射角」</p>	<p>・子どもの言葉を用いて課題を設定する。</p> <p>・前時の実験を振り返りながら説明する。</p>
展開 35分	<p>得られた知識と実験によって考察を行う。</p>	<p>・班員と話し合い、動画について考察を行う。(その際に、各班に配られた光源装置と水槽に見立てたガラスキューブを用いても構わない。)</p> <p>(★視点①：小学校の手立て②)</p> <p>・水槽に水が入っていないとき、柱から乱反射された光はまっすぐ目に届く。 ・水槽に水が入ると目に届くはずであった光が、屈折することで本来の位置とずれてしまう。</p>	<p>◇班での話し合い活動や実験を通して、課題解決に主体的に取り組み、自分の意見を持つことができる。(学びに向かう力、人間性) →プリントに自分の考えが記入されているか。</p> <p>・理解できていない生徒には、光源装置とガラスを用いて光が曲がることに気づかせる。</p>

	<p>班員、学級に共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屈折によってずれた光は目に届く前に赤い柱によってさえぎられてしまうため見えなくなってしまう。</li> <li>○光が屈折することによって、物体がずれて見えることがある。 (★中の視点①：手立て②)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく説明できている生徒に全体に向けて発表させる。</li> <li>◇光の屈折を用いて、チョークが見えなくなる現象について説明できる。(思考力、判断力、表現力等) →プリントにわかりやすく考察が記入されている。</li> </ul>
<p>終 末 8 分</p>	<p>本時の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光が屈折することによってずれて見えることがある。</li> <li>・光の屈折は規則にしたがって曲がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りノートに今日の授業の大事だと感じたこと、わからなかったこと、疑問を記入する。</li> </ul>

## 指導主事からの指導内容（佐々木淳一 指導主事）

竹谷 亮祐

### 本時について

- ・生徒に仮説を立てさせる時間を設けることができれば、実験の時間を短縮でき、意見共有や振り返りの時間を確保できたのではないか。また、仮説を立て、見直しをもつことで今回の課題を達成できる生徒も増えたのではないか。
- ・仮説を立てさせることで、低学力の生徒もある程度見直しをもって考えることができたのではないか。
- ・板書に課題のヒントとなるものがあれば、子どもたちが考えやすかったのではないか。
- ・振り返りやまとめとして、日常生活に関連づけることができればなおよい。

### 単元を通して

- ・単元のはじめに課題となる動画を見せていることで、生徒の必要感が生まれ活発な活動となった。
- ・振り返りの時間を確保しているのであれば、振り返りから生まれた疑問を拾うことができれば子どもたちの学びにとって非常に良い。

### 連携教育の視点

- ・考察を苦手とする生徒が多い中で、低学力の生徒も考察を考えることができるようにするためには、小学校から9年間かけて指導するべき。小学校の考察のさせ方を見てみては。
- ・単元の導入には色々な方法があるが、教員が見直しをもっていればどのような導入でも最終的に学びにつながる。

# 南中学校 理科学習指導案

授業学級	第 3 学年 5 組
単元名	運動とエネルギー
授業者	板橋 佳子



## 第3学年5組 理科学習指導案

日 時 令和7年10月9日(木) 第2校時  
 生徒数 男子20名 女子 16名 計 36名  
 活動場所 3年5組教室  
 指導者 板橋 佳子

### 1 単元名 『単元3 運動とエネルギー』

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本単元は運動の規則性やエネルギーの基礎を、身のまわりの物体の運動などの観察や実験を通して見いだすことがねらいである。1章で目に見える物体の運動における「速さ」を定義し、2章で目に見えない力の合成・分解を作図を通して解説し、3章でエネルギー、理科における仕事について考えるなど、段階的に概念を形成していきけるように進めていく。

#### (2) 生徒の実態

実験や観察も意欲的に取り組み、好奇心旺盛で、授業中での発言も多い。科学的な概念や知識に関心が高く、授業終わりに質問をする生徒も見られる。1年次に力の種類とつりあう力の関係を学習しているが、作図が苦手な生徒が多く、目に見えない力を表すイメージが定着しなかった。物体の運動を身近な場面と結び付けることはできているので、段階的に学習し、学力を身に付けさせていきたい。

#### (3) 指導観

本単元では目に見えない力と物体の運動との関わり、エネルギーの基礎を実験を通して学習させる。運動の測定、グラフ化、グラフの読み取り、合力・分力の作図を丁寧に行う必要がある。目に見えない物理的な概念を習得していく過程を通して、運動の規則性やエネルギーの基礎について学習させていきたい。

### 3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は理科における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話合い活動の充実
理科	・視覚的な問いの提示	・仮説、考察の共有の時間の充実

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
理科	・単元の導入における、日常から生まれる疑問の視覚化 ・自らが立てた仮説の検証実験の実施	・単元の中でのルーブリック、振り返り

#### 4 単元の目標

- 物体の運動や仕事に関する観察、実験を通して、物体に対する力のはたらき方と運動の規則性や、エネルギーとの関係性を理解するとともに、それらの観察、実験の技能を身に付ける。

【知識及び技能】

- 物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現し、探究の過程を振り返る。

【思考力・判断力・表現力等】

- 物体の運動と力のはたらき方が関係する状況や、エネルギーに関する現象に進んで関わり、科学的に探究する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】

#### 5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1章			
1・2	物体の運動のようすに興味を持ち、速さや向きが変わるときに、力が関わっていることを理解する。	物体の運動は速さと向きで表せることを理解し、物体の運動の種類にはどのようなものがあるのか気付くことができている。	<b>主体性</b> 物体の運動の種類について話し合い、力と運動の実験に向けて、仮説設定と検証実験の内容を考える。
3・4	班でたてた仮説の実証実験を通して、力が物体の運動にどう影響するかの規則性に気付く。	記録タイマーの使い方と、テープの処理の仕方を理解し、結果から力と運動の関係について考察することができている。	<b>主体性</b> 記録タイマーを使用し、班でたてた仮説の検証実験を行い、記録テープの処理から考察を考える。
5・6	力が物体の運動にどう影響するかを説明し、日常の場面と結び付けて考える。	物体の速度が変化するときには力のはたらきで運動であり、速度が変化しないときは力のはたらいていない運動であることを理解し、具体的な場面をあげ、事象について説明することができる。	<b>多様性</b> 他班と自分の班との実験結果を見比べ、力が運動にどのような影響を及ぼしているのかを話し合う。 <b>主体性</b> 章のまとめとして演習問題とルーブリックを行い、自己分析をする。
2章			
7・8	物体にはたらく2力が重力とどのような関係にあるのかを理解し、その力を矢印等を用いて表す。	物体にはたらく重力が、はたらく2力を2辺とする平行四辺形の対角線で表せることを理解し、分力や合力を作図することができる。	<b>主体性</b> 物体にかかる重力とつりあう2力の大きさが角度によってどう変化するか、実験条件を班で決め、調べる。またそれを作図によって表す。

9	物体の運動の状態が変化するとき、物体に触れているものはどのようになるのかを理解する。	物体には、力がはたらかない限り運動している物体はそのまま運動し続け、静止している物体はそのまま静止し続ける慣性があることを理解し、日常の関連場面を挙げるができる。	<b>多様性</b> 慣性の法則を利用した実験を行い、触れている物体がどう動くのかを説明し、日常で慣性が起きている場面を班で話し合う。
10	物体に力を加えたとき、加えた方も力を受けることに気付き、身のまわりで利用されている場面を出し合って説明する。	物体に力を加えると、2つの物体間で力を及ぼしあうことに気付き、日常での利用場面や原理について説明することができる。	<b>多様性</b> スポーツの写真をもとに2つの物体間ではたらく力について話し合い、身のまわりで作用・反作用の法則が関連する場面を出し合う。
11・12	水中では水圧と浮力がはたらくことを理解し、その関係について説明する。	水中にある物体には水圧が全方位にかかり、その上下の差が浮力であることを説明し、浮力は体積に比例することを理解している。	<b>主体性</b> 班で考えた実験方法で浮力の大きさが変化する条件を調べ、他班との結果と見比べて考察する。 <b>主体性</b> 章のまとめとして演習問題とルーブリックを行い、自己分析をする。
3章			
13・14	エネルギーの種類を理解し、エネルギーの大きさが物体のどの条件で変わるのかを実験で調べ、考察する。	実験の結果から考察し、エネルギーの大きさは物体の質量と位置(高さ)によって決まることに気付き、静止している物体も位置エネルギーを持っていることを理解している。	<b>主体性</b> レーン、木片、材質や質量の異なるボールを使い、班で考えた仮説を検証する実験を行い、結果から考察する。
15	仕事を求める式を理解し、具体的な事例を用いて、仕事を数値化し、エネルギーとの関係について説明する。	仕事の大きさは、物体に加えた力と物体が移動した距離の積によって求められることを理解し、いくつかの事例における仕事の大きさを計算することができる。	<b>主体性</b> 前回の実験結果を使い、ボールが木片にした『仕事』を数値として計算する。また、日常における仕事を計算する。
16・17	正しい操作で実験を行い、道具を使うときと使わないときで仕事の大きさが同じことを、データをもとに考察する。	道具を使うことで、仕事の大きさは変わらず、力の大きさと距離が変わることを理解し、仕事率を求めることができる。日常での利用場面にも気付くことができる。	<b>多様性</b> 滑車を使った実験を行い、道具を使ったときの変化に気付き、日常で利用されている場面や道具について話し合う。

18	エネルギーの形態が変わっても、その総量は保存され、変わらないことを理解する。	エネルギーは異なる種類のエネルギーに移り変わることを理解し、余分な熱エネルギーも含め、総量が同じになることを説明できる。	<b>主体性</b> 日常の場面の中で、エネルギーが移り変わっている部分を話し合いから出し合っていく。
19	エネルギーが日常や社会のどの場面で利用され、どんな課題があるかを調べ、解決方法を探る。	エネルギー変換効率や、環境に配慮した電気エネルギーの生み出し方など、社会の課題について話し合い、SDGsの観点も踏まえた解決方法が挙げられる。	<b>多様性</b> エネルギーに日常や社会のどの場面で利用され、どんな課題があるかを調べ、解決方法を話し合う。

## 6 本時の学習指導 (16/19時)

### (1) 本時の目標

- ・正しい操作で実験を行い、結果を整理する技能を身につける。【知識・技能】
- ・道具を使うときと使わないときで仕事の大きさが同じことを、データをもとに考察し、記入できている。【思考・判断・表現】

### (2) 準備

- ・滑車 ・おもり ・スタンド ・ばねばかり

### (3) 展開 (★「連携」の視点は別紙参照)

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
導入	1 既習事項を確認する	○仕事の求め方 $\text{仕事} = \text{物体に加えた力の大きさ (N)} \times \text{力の向きに移動した (m)}$	
	2 課題を確認する	<b>「道具を使うときと使わないときで、仕事の大きさに変化はあるか？」</b>	
	3 身近で道具が使われている場面を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーター</li> <li>・クレーン</li> <li>・てこ</li> </ul> ○身近な道具と力の大きさの関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕組みには深くは踏み込まず、例を挙げるにとどめる。</li> </ul>
		<b>★視点：子どもが楽しさを見いだす学びの工夫・充実</b> <b>小学校の手立て①⇔中学校理科における手立て①</b> <b>『単元の導入における日常から生まれる疑問の視覚化』</b>	

展 開	4 実験内容の確認	○滑車を使って実験することを知る																
	5 予想する	<ul style="list-style-type: none"> <li>滑車を使うと、力が少なくて済むが、できる仕事の大きさは小さくなる。 →仕事は力×距離だから。</li> <li>力が小さくなくても仕事の量は変わらない。何か他のものが変わるのかも。 →道具を使っても仕事量が小さくなったら意味がない。エレベーターなど。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想した理由もあわせて聞いていく。根拠となるものが示せるよう、考えることを伝える。</li> </ul>															
		<p>★視点：子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実 小学校の手立て②⇔中学校理科における手立て② 『仮説（予想）、考察の共有の時間の充実』</p>																
	6 実験する	<p>手順①物体を直接引き上げる 手順②定滑車を使って物体を引き上げる 手順③動滑車を使って物体を引き上げる ※手順①、②のおもりに、手順③の動滑車の質量を加える。</p>	<p>◇【知識・技能】 正しい操作で実験を行い結果を整理する技能を身につけている。（行動観察） 評価Bに達しない生徒の支援 →班で分担を決め、全員が操作を見られるよう助言する。</p>															
7 結果の確認	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>力 (N)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>距離 (m)</td> <td>0.1</td> <td>0.1</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>仕事 (J)</td> <td>0.1</td> <td>0.1</td> <td>0.1</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>直接持ちあげても、滑車を使っても仕事の大きさが同じ。</li> <li>道具を使っても使わなくても、仕事の大きさは変わらない。</li> </ul>		①	②	③	力 (N)	1	1	0.5	距離 (m)	0.1	0.1	0.2	仕事 (J)	0.1	0.1	0.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ仕事の大きさに変化がなかったのか班でよく意見交換させる。</li> </ul>
	①	②	③															
力 (N)	1	1	0.5															
距離 (m)	0.1	0.1	0.2															
仕事 (J)	0.1	0.1	0.1															
8 考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>動滑車のとき、引いた距離も力の大きさも変わった。</li> <li>動滑車では引く力が小さくなった分、引く距離が長くなった。仕事は力×距離だから、大きさが変わらない。</li> <li>定滑車は直接持ち上げたときと大きさなどは変わらない。何のためにあるのか？</li> </ul>	<p>◇【思考・判断・表現】 道具を使うときと使わないときで仕事の大きさが同じことをデータをもとに考察し、記入できている。 （実験プリント） 評価Bに達しない生徒の支援 →実験数値を指し示し、他の班員の意見を参考にし、書くよう助言する。</p>																

		<p>★視点：子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実          小学校の手立て②⇔中学校理科における手立て②          『仮説（予想）、考察の共有の時間の充実』</p>	<p>・考察で疑問が出たら、全体に投げかけ、再度班で思考する時間をとる。</p>
終末	<p>9 まとめ          ・プリントの【ノート】部分に記入。</p> <p>10 プロGRESSシートを記入する</p>	<p>○仕事の原理  <u>どんな道具を使っても、同じ状態になるまでの仕事の大きさは変わらない。</u></p>	
		<p>★視点：子どもが楽しさを見出す学びの工夫・充実          小学校の手立て②⇔中学校理科における手立て②          『単元の中でのルーブリック、振り返り』</p>	

**良かった点**

- ・最終的に身近なもの結び付けている。(予想や考察時)
- ・プログレスシートはいい取り組み。疑問を出すことで課題意識が出たり、これだけ書けているという  
ことは、教員側からのコメントやリアクションなどがあるから。続けてほしい。
- ・評価の「思考・判断・表現」の部分では、全員が考察をよく書けていたので、ここまでの指導の流れが  
うかがえる。

**課題点**

- ・予想、仮説をもっと深めたかった。道具全般に対する「課題→予想」なのか、「滑車を使う→予想」が分からなかった。  
→結果の表があるので、「どの数値がどんな変化をする？」など、具体的な数値を入れておけば、より  
深まり、数値の変化をイメージすることで結果のミスなどに気付くこともできる。また、おもりも自分たちで個数を変えてやるなど主体性にもつながる。
- ・結果の確認のあと、実験がうまくいった班へのはたらきかけがあいまいだった。  
→「じゃあおもりは1個だったけど、その重さでも同じかな？」など、深めるための声掛け、はたらきかけがもっとできたはず。個別最適な学びには「準備としての声掛け」が大事。
- ・技能の見取り(評価)をどこでするのか。  
→教員側が意図して指示を減らし、実験の中で気づかせようとしていることはよいが、「知識・技能」の評価にある『正しい実験操作』を見取るのが難しいのでは。正しい操作をさせたいのであれば、説明することも必要。

**総合的に**

- ①手立てにある「振り返り」は、ただ書かせているだけではあまり変化はない。教員側からのリアクションや評価などがあって、生徒側も変容してくるもの。これだけ書けるのは、毎回のチェックなどがあるから。
- ②生徒が自ら学び続けるようにするためには、以下の2つが必要で、繰り返していくことが必要。

- 指導の積み重ね（実験の際はどこを基準にして考えるのか、データをどう比較するのか、など）
- 深めるための個別最適な声掛け（色んな結果が出た班へ疑問を投げかけるなど）

# 南中学校 社会科学習指導案

授業学級	第 2 学年 1 組
单元名	産業革命と資本主義
授業者	笠原 豪資



# 社会科(歴史的分野)学習指導案

日 時 令和7年11月19日(水) 第2校時  
生徒数 男子21名 女子20名 計41名  
場 所 第2学年1組 教室  
指 導 者 教諭 笠原豪資

## 1 単元名「欧米における近代化の進展」 「産業革命と資本主義」

## 2 単元について

### (1)教材観

本小単元は、中学校学習指導要領解説（平成29年度告示）2 内容 C 近現代の日本と世界 （1）に以下のように位置付けられている。

#### (ア) 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き

欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。

ア (1) のアの (ア) の「市民革命」については、政治体制の変化や人権思想の発達の広がり、現代の政治とのつながりなどに関連づけて、アメリカの独立、フランス革命などを扱うこと。「アジア諸国の動き」については、欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容という観点から、代表的な事例を取り上げるようにすること。

この事項のねらいは、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを、理解できるようにすることである。

### (2)生徒の実態

本学級の生徒は社会科好きも多く、授業にも積極的に参加しているが、生徒の中には社会＝暗記と捉える生徒であったり、自信を持って話し合いに参加できなかったりする生徒も存在する。そのため社会班を構成し、2学期からは様々な班構成で活動を行なっている（男女で分ける・部活動で分ける・生徒の積極性で分ける等）。生徒が苦手としている活動は、いくつかの資料を参考にしながら考える問題である。1つの視点でのみ見ることに囚われ、多角的に考えられなかったり、別の資料の読み取りが疎かになったりしてしまう。それらを生徒同士で注意し合いながら、様々な視点に気づけるような授業を展開していく。

### (3)指導観

指導にあたっては、「工業化の進展と政治や社会の変化」などに着目して課題を設定し、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響などを考察できるようにすることなどが考えられるようにする。本時では特に産業革命について、イギリスでなぜ起きたのかを考察することで、政治的・経済的視点で考え、表現できるようにしていきたい。

また資本主義社会が成立した陰で、労働問題・社会問題が発生したことを通し、現代でもあげられる問題点に関わっていることを理解できるようにしていきたい。

### 3 研究主題との関わり（別紙参照）

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進」

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は〇〇における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実」
	①単元の見通し・まとめの実施 ②班隊形での考えの共有・発表	①班のメンバー構成を工夫

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
	①答えが限られていない問の設定 ②導入の工夫(歴史は人物) ③班のメンバー構成を工夫	①グラフでの振り返り

### 4 単元の目標

- ・アジア諸国の動きについては、「欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容という観点」から中国の動きなどを理解するとともに、諸資料から情報を得てまとめる技能を身に付ける。(知識・技能)
- ・産業革命については、イギリスを取り上げ、資本主義社会が成立したことや、労働問題・社会問題が発生したことや現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(思考・判断・表現)
- ・市民革命については、アメリカの独立、フランス革命などから政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

### 5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1	イギリスとアメリカの政治体制の変化を、きっかけになった出来事に着目して理解する。	イギリスとアメリカが近代革命を経て近代国家を形成していった過程を理解するとともに、啓蒙思想についてどのようなものか調べ、主体的に追究する態度を養う。	<b>多様性</b> 革命を起こす流れと当時の人々の苦悩を3人の思想家を調べ、ノートにまとめ、共有する。
2	フランスで近代民主政治への動きが生まれたことを理解し、現代の政治とのつながりを考察し、表現する。	フランスの政治の変化と現代の政治とのつながりを考察し、表現している。	<b>多様性</b> フランス革命時の様々な身分の人々がどのような考えを持っていたのか、グループで共有する。
3	19世紀のヨーロッパと中南米諸国の動向を理解する。	ヨーロッパで国民国家が形成されていく過程と中南米諸国の独立を理解し、現在の日本の政治と比較して、考	<b>主体性 多様性</b> ヨーロッパの革命の流れから現代の政治に繋がる問いを設け、自分の意見を班で

		察し、表現している。	共有する。
4	ロシアとアメリカ合衆国が発展する過程で、さまざまな問題を抱えていたことを考察し、表現する。	アメリカ合衆国の発展の一方で、先住民の強制移住や黒人への人種差別などの問題があったことを考察し、表現している。	<b>多様性</b> ロシアの南下政策の理由や南北戦争によるアメリカの発展を班で考え、表現できる。
5	産業革命を経て、経済の仕組みが大きく変化し、労働問題や社会問題が発生したことを考察し、表現する。	産業革命が欧米諸国に与えた影響を考察し、表現している。	<b>主体性 多様性</b> 導入の資料から、産業革命にどのような影響をもたらしたかを自ら考察している。 イギリスで産業革命が起こった理由を資料等を基に考察し、班で共有している。
6	産業革命を経て、出てきた新たな社会体制を比較し、主体的に追究する態度を養う。 単元のまとめを行う。	資本主義・社会主義の比較を通して、どちらの社会体制が良い社会を創っていくことになるのかを考察し、追究している。	<b>主体性 多様性</b> 資本主義と社会主義の比較を通して、答えの限られていない問を設け、多面的・多角的に物事を考察している。

## 6 本時の学習指導（5 / 5時）

### (1) 目標(ねらい)

- ・なぜイギリスで産業革命が起こったのかを資料を使い考察し、自分の言葉で表現できている。

#### 【 思考・判断・表現 】

- ・産業革命により、資本主義社会の成立や労働問題の発生などについて理解している。【 知識・技能 】

### (2) 本時の展開

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場労働させられている少年の絵を見る。</li> <li>・本時のねらいをつかむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな状況か絵から想像させる。</li> <li>★（小の視点②：手立て①） <ul style="list-style-type: none"> <li>・少年が鞭でたたかわれている。</li> <li>・後ろに機械がある ・子どもが働いている。</li> </ul> </li> <li>○産業革命からどのような社会が成立したのかを掴ませる。</li> </ul>	写真の掲示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械があることや少年が働いていること、上下関係が出来上がっていることから産業革命とその後の社会に繋げる。</li> </ul>
<b>課題</b> なぜイギリスで産業革命が起こり、どのような社会が成立したのかを掴む			
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命の意味を考える。</li> <li>・お店や工場を開くうえで必要なものを復習させ</li> </ul>	改めて革命の意味を考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制が変わること      ・身分の高い人が殺されてしまうこと</li> <li>○お店を開くうえで必要なもの5つを復習させる。 5つ… 施設 <b>設備</b>・土地・労働者・原材料</li> </ul>	

	<p>る。</p> <p>・問 なぜイギリスで産業革命が起こったか。資料と上記の5つを連想させ、考察し共有する。</p> <p>・産業革命によって資本家と労働者の関係や利潤追求によって資本主義社会ができたことを知る。</p> <p>・子どもや労働組合ができたこといくつかの権利を知る。</p> <p>・資本主義が主流になることで一方多くの物売るためにも市場の拡大、植民地の拡大が始まることを掴む。</p>	<p>※設備の部分で大きな変化が起こることを掴む。</p> <p>○資料を提示し</p> <p>①植民地が他の欧米諸国との違いだと気付かせ、植民地があることで製品が売れる、資源が採れることに気づかせる。</p> <p>②政治的な発展が「自由」な産業を発展させたことに気づかせる。</p> <p>★（小の視点①：手立て①）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植民地を多く所有している。</li> <li>・植民地に製品を売ることができる。</li> <li>・労働者の確保を植民地からできる（奴隷）。</li> </ul> <p>○資本家はできる限り出費を減らすことを考えている。施設・設備・土地・労働者・原材料の中で減らすとしたら、労働者に渡す賃金だと気付かせ、当時の様子を教科書で確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働者の賃金はできる限り減らせる。</li> <li>・子どもであればさらに低い賃金にできる。</li> <li>・できる限り長い時間働かせる。</li> </ul> <p>○3年生の内容と重複する点があるが簡単に触れて置く。賃金や労働時間に関する内容に触れる。</p> <p>○帝国主義の思想が産業革命から繋がっていることを捉えさせる。</p>	<p>教科書 p 186</p> <p>◇【思考・判断・表現】</p> <p>タブレットを活用し、シートの提出で評価。</p> <p>◇【知識・技能】</p>
<p>まとめ</p>	<p>本時の振り返りをする</p>		

No.18 産業革命と社会 課題 なぜイギリスで産業革命が起き、どのような社会が成立したのかを掴む

**産業革命**…工場での大量生産などの経済と 植民地…売れる・資源採れる

社会の仕組み変化 製鉄・機械・鉄道・造船・武器の発達

工場を開くうえで必要な物 ◎資本主義 資本家

施設・設備・原材料・労働者・土地 賃金↓ ↑労働力

<問>なぜイギリスで産業革命起こったか。 労働者

資料や上記から読み解き、書きなさい。 低賃金で働かせる → 労働者に対する問題

労働組合の結成

◎ 資本主義の台頭により、植民地を増やす 国々が増える … アジア進出へ

社会科 指導主事 指導内容

1. 南中の社会科における・主体性 ・多様性 のつけかたを考えておく  
→教科として共通の認識があると良い
2. 主体的にするためには、興味・関心だけではなく、社会的な見方・考え方を働かせる必要がある。そのために資料を提示したり、発問を工夫したりする。  
生徒が「なぜ？」をもって課題を解決できる授業にしていく。
3. 基本的には教科書の資料を活かす。よく考えられた資料や構成になっている。  
発展的な内容や導入については他資料を活かしても良いが「出典」を確実に明記する。
4. 課題を教員側で提示したり、事前を書いてあったりするの生徒の課題ではない。  
課題を生徒から出させて、ゴールに向かってどのように学習していたか。  
課題の予想をすると「見通し」ももてる。  
生徒が課題に「納得感」をもって授業ができると「主体性」は上がる。



# 南中学校 社会科学習指導案

授業学級	第 3 学年 3 組
单元名	人権と共生社会「自由権」
授業者	中川 勇作



## 第3学年3組 社会科（公民分野）学習指導案

日 時 令和7年10月7日（火）第2校時  
生徒数 男子20名 女子17名 計37名  
活動場所 3年3組教室  
指導者 中川 勇作

### 1 単元名 小単元2 人権と共生社会 「自由権」

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本小単元は、中学校学習指導要領解説（平成29年度告知）2 内容 C（1）に以下のように位置付けられたものである。

#### (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 人間の尊重についての考え方を，基本的人権を中心に深め，法の意義を理解すること。

(イ) 民主的な社会生活を営むためには，法に基づく政治が大切であることを理解すること。

(ウ) 日本国憲法が基本的人権の尊重，国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解すること。

(エ) 日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し，表現すること。

この中項目は，個人の尊重と法の支配，民主主義など，法に基づく民主政治の理解を基に，政治及び法に関する様々な事象を捉え，考察し，表現することができる適切な問いを設け，それらの課題を追究したり解決したりする活動を通して，日本国憲法の基本的な考え方及び我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について理解を深めることができるようにすることを主なねらいとしている。

日本国憲法の基本的原則を具体的な生活との関わりから学習させ，自由・権利と責任・義務との関係を社会生活の基本として広い視野から正しく認識させ，日本国憲法が，基本的人権の規定とそれを保障する政治機構を主な内容としていることなど，日本国憲法の構成を大きく捉えることができるようにすることが大切である。

そして，法の意義及び法に基づく政治の理解を基に，日本国憲法が最高法規であることや，日本国憲法に基づく政治によって，国民の自由と権利が守られ，民主的な政治が行われるということについて多面的・多角的に考察し，表現できるようにする。

#### (2) 生徒の実態

本学級の生徒は、社会科という科目に苦手意識を抱く生徒が多く、公民分野の学習に入り、より興

味関心をもてない状況である。まずは、興味関心を持てるため、自分の生活と結びつけて考えられる発問や導入を行っていく。

また、知っている言葉の発言などは多くの生徒が積極的に行うが、自分の考えを発表したりする場においては自信をもって表現する力が乏しい。

グループ活動などを通して、多様な意見に触れたり、考えたりする活動を意図的に行い、生徒一人一人の、表現力を醸成し、ねらいに迫れるようにしていく。

### (3) 指導観

人間の尊重と日本国憲法の基本的原則では、個人の尊重と法の支配、民主主義など民主主義など民主政治の基本となる考え方について理解できるようにするために、人間の尊重についての考え方を、民主社会において全ての人間に保障されるべき価値を内容としてもつ基本的人権を中心に深めることができるようにする。また、各人の人権を守り社会生活を営む規範となることに法の意義があること、そして、そのような法に基づいて政治を行うことによって基本的人権を保障することを目指していることを理解できるようにし、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、グループ活動を行いながら、多面的・多角的に考察し、表現できるようにしていきたい。

## 3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

## 4 単元の目標

- ・人間の尊重に対する考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。(知識・技能)
- ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされている理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現する。(思考・表現・判断)
- ・人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関ろうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

## 5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1	日本にはどのような差別があるかを部落差別、アイヌ民族への差別、在日韓国・朝鮮人への差別など具体的な事例を通して理解する。	日本にある差別について理解し、国の行っている差別撤廃への取り組みについて説明することができる。	<b>多様性</b> 今もなお日本に残る差別を知り、なぜ差別があるのか、現在の日本では撤廃に向けてどのような取り組みが行われているのか、個人で調べる。
2	共生社会を築いていくために、私たちにはどのような取り組みや努力が求められているか、インクル	共生社会の実現のために、必要なことを平等権の学習全体を通して考察し、説明できる。	<b>多様性</b> 共生社会の実現のために、自分たちにできることはグループで考え、意見共有す

	ージョンの実現と関連付けて考察し、表現する。		る。
3	自由権は日本国憲法でどのように保障されているか、対話的な活動を通して個人の尊重の観点から考察し、表現する。	自由権が保障されることが重要な理由を、個人の尊重の観点から考察し、説明できる。	<b>多様性</b> 様々な事例を通して、自由権の意義を理解し、なぜ自分たちの生活に自由権が保障されているのか、グループで話し合う。
4	社会権が日本国憲法でどのように保障されているか、生存権に関する対話的な活動などを通して自由権（経済活動の自由）との関係から考察し、表現する。	社会権が保障された理由を、自由権（経済活動の自由）から考察し、説明できる。	<b>多様性</b> 朝日訴訟を通して、「人間らしい生活」について意見交流をし、自分なりの考えをもつ。
5	私たちの人権保障を確かなものにするために、日本国憲法では具体的にどのような権利が保障されているか、資料の読み取りを通して理解する。	参政権や請求権にはどのような種類があるか、本文の読み取りを通して理解している。	<b>主体性</b> 人権保障を確かなものにするために、どのような権利があるのか。個人で調べ、ノートにまとめる。
6	自由や権利の限界、制限されている理由について資料を読み取り、理解する。	自由や権利の限界、制限されている例を本文や資料の読み取りを通して、理解している。	<b>多様性</b> 「公共の福祉」について具体例を通して、意見を交流し、多様な意見に触れる。

## 6 本時の学習指導（3／6時）

### （1）本時の目標

自由権は日本国憲法でどのように保障されているか、対話的な活動を通して個人の尊重の観点から考察し、表現する。

### （2）展開（★「連携」の視点は指導案綴りP〇〇を参照）

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
導入 5分	1 生活の中での自由度について考える。 2 本時の課題に対する予想を書く。	○自分の生活の中での自由度について考え、理由をノートに記入し、自由権の保障とのずれを感じさせる。 ◆（小の視点②：手立て①）	・普段の生活での不自由な点を挙げさせて、日本国憲法の自由権につなげる。 ・タブレットに記入。
なぜ、憲法で自由権が保障されているのか？			

<p>展 開 40 分</p>	<p>3 自由権が保障されているのに、生活の中で「不自由」があることについて話し合う。</p> <p>4 自由権についての説明</p> <p>5 自由権の種類について</p> <p>6 各事例が自由権のどの自由に当てはまるか考える。</p> <p>7 自由権の保障</p>	<p>○自由権とは国家が保障する自由であるということに話し合いから気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人や立場によって自由の考え方が違う。</li> <li>・誰もが好き勝手やることは自由ではない。</li> <li>・みんなが好き勝手やったら大変なことになる。</li> <li>・国家の言う自由は好き勝手やっていい自由ではない。</li> </ul> <p>○話し合いを受け、自由権とは国家からの自由であることを理解する。</p> <p>○身体的自由、精神の自由、経済活動の自由について理解する。その際に、それぞれの具体的な内容にも触れる。</p> <p>○自由権の内容、保障について理解し、問題に取り組むことで、自由権についての内容を深める。</p> <p>○自由権がない場合の私たちに及ぶ影響となぜ自由権が保障されているかの意味を知る。(個人→班→全体)</p> <p>◆ (小の視点①：手だて②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由権がなかったら、自分たちの意見が政治に反映されない。</li> <li>・就きたい職業も選べない。</li> <li>・生きがいを感じない。</li> <li>・自由権は国家権力から干渉されず、自由に考え行動できる権利。</li> <li>・個人として尊重されるためには、自由に物事を考え、行動できることが重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど考えた、生活の中での「不自由」は国家の保障する自由権とは異なるということにつながられるようにする。</li> <li>・話し合いの内容をふまえて、個人でワークシートに記入させる。</li> <li>・自由権の種類を教科書を見て、プリントにまとめさせる。</li> <li>・ここまでで学んだことを生かし、判断できるように促す。</li> <li>・自由権が保障されていることが自分達の生活にどう影響しているのか。自由権が保障されてなかったら、どのような不自由が生じるのか。考えながらまとめさせる。</li> <li>◇自由権が保障されることが重要な理由を、個人の尊重の観点から考察し、説明できる。(思考判断表現)</li> </ul>
<p>終 末 5 分</p>	<p>8 本時の振り返り</p>	<p>○タブレットにて本時の課題に対する答え、振り返りを記入。</p> <p>◆ (小の視点②：手だて③)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題から次回の社会権につなげられる説明をする。</li> </ul>

## 社会科 指導内容

- ・課題に対して、最初に個人で考えをもつ→班での話し合い活動→個人で最後深める授業の形は今後も継続してほしい。
- ・先生の授業でのストーリーが生徒に伝わっていたのか？
- ・タブレット、プリントでの授業構成をどうしていくか。
- ・もっと良くなる授業の構想
- ・授業の際に何か事例を挙げるときは、社会的判断が出ているものが望ましい。(最高裁まで判決の出ている)
- ・最後に自分の考えをまとめさせる際に、根拠をもって、まとめさせられるといい。探求課題もあるので、その探求課題に対しての、本時の授業はどうか。
- ・最後の少しの時間で、ちょっとした討論を入れられるといい。
- ・話し合いをする際テーマを考える。(授業の内容から考えるのか、予想を話すのか、知っていることなのか)  
①話し合わないと解決できないと問②多様な視点を取り入れた問③考えを聞く問
- ・小中連携を社会の視点で考えた場合、小学校での内容(既習事項)を復習したりすることで、学習のギャップを防ぐことができるのではないか・
- ・主権者教育について
- ・同和問題について
- ・博物館との連携について
- ・領土問題について



# 南中学校 音楽科学習指導案

授業学級	第 1 学年 5 組
单元名	混声三部合唱の響き
授業者	川崎 尚徳



# 第1学年5組 音楽科学習指導案

日 時 令和7年10月7日(火) 第2校時  
生徒数 男子17名、女子17名、計34名  
活動場所 第1音楽室  
指導者 川崎 尚徳

## 1 題材名 混声三部合唱の響き

## 2 題材設定の理由

- ①合唱コンクールの学年合唱の題材としての選曲。
- ②混声三部合唱の音の重なり方と強弱に着目し、生徒の思いや意図をもとに工夫することができる。  
また、生徒が音の重なりや強弱の変化、演奏するために創意工夫する力、思いや意図を実現するための技能を高めていくことができる。

## 3 教材名 Let's Search for Tomorrow(堀 徹 作詞、大澤徹訓 作曲)

## 4 教材観

本題材は、学習指導要領の第1学年A表現(1)の工「声部の役割を感じ取り、全体の響きに気を付けて合唱や合奏をすること」、キ「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること」、ク「速度や強弱の働きによる曲想の変化を感じ取って表現を工夫すること」を中心に学習を進めるものである。

工「声部の役割を感じ取り、全体の響きに気を付けて合唱や合奏をすること」は、「和声を含む音と音との関わり合い」を踏まえて、自分の声部と他の声部とのかかわり合いや全体の響きを感じながら表現する能力を伸ばすことである。声部の特徴と役割を感じ取らせることにより、他の声部とのかかわりを感じ取らせること、そこから生まれる全体の響きを感じながら自分の担当する声部を正しく表現する能力を育てることがねらいである。

## 5 生徒の実態

今年度の1年生全体に言えることとして、合唱などの経験が浅いようである。特に男子は変声期と相まって、自分音を捉えることが難しいようである。そのような中で、合唱コンクールを迎えることは、合唱としてのハーモニーを取る感覚が乏しく、他パート(特にソプラノ)の音につられてしまうなど自分の音の自信が持てない生徒も多いようである。そのような中で、しっかりと声の出し方を覚え、音の感覚を少しずつでも養っていくことが出来ればと考えている。

## 6 研究主題との関わり

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐぐみ 未来を拓く 連携教育の推進」

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て① 生徒が自分の考えを持つための工夫	手立て② 単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実
音楽	調べ学習の設定、調べる内容に興味を持たせるような工夫	各自の意見や調査内容から、自分の考えを発表する場面の設定

## 7 題材目標

- ・声部の役割と全体の響きを感じ取り、和声を含む音と音のかかわり合い、強弱による曲想の変化を生かして表現する技能を身につける。【知識及び技能】
- ・声部の役割と全体の響き、和声を含む音と音のかかわり合いや強弱による曲想の変化を感じ取り、イメージや考えを持って表現の工夫をする。【思考力・判断力・表現力等】
- ・声部の役割と全体の響きを感じ取り、和声を含む音と音のかかわり合いや強弱による曲想の変化に関心を持ち、意欲的に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

## 8 単元計画と評価及び主題に迫る学習内容

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1・2時	・声の出し方の調整、変声期の歌おう。 ・PCを使用したパート練習を行い、自分のパートの音を覚えて歌おう。	・自分の声の出し方に注意して歌を歌っている。 ・練習したパートの音をしっかりと歌っている。	【多様性】 ・さらに良い発声にするための方法を調べ、それを生かしていく。
3時	・旋律の構成を知り、各声部の役割や全体の響きを感じ取りパート練習で自分の声部の旋律を歌おう。	・他のパートと合わせたと き、つられることなく自分のパートを歌っている。	【多様性】 ・各声部との関わりを考え、どのように歌ったら良いか工夫する。
4時	・各声部の役割や全体の響きを感じ取り表現を工夫しよう。	・斉唱部と合唱部の違いに気付き、歌い方に変化を付けている。	【多様性】 ・各声部との代わりを考え、変化の方法を考える。
5時	・音楽の強弱の働きによる曲想の変化を感じ取りながら表現を工夫しよう。	・自分の表現方法を様々に変化させながら表現している。	【多様性・主体性】 ・曲の変化を感じ取り、各自の意見をまとめ一つの音楽ににする。

9 音楽の評価規準

観点1 知識及び技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に学習に取り組む態度
声部の役割と全体の響き、和声を含む音と音とのかかわり合い、強弱による曲想の変化を感じ取り、イメージや考えを持って表現の工夫をしている。	声部の役割と全体の響き、和声を含む音と音とのかかわり合い、強弱による曲想の変化を生かして合唱表現している。	声部の役割と全体の響き、和声を含む音と音とのかかわり合い、強弱による曲想の変化に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。

10 本時の学習指導（1 / 5 時）

1) 本時の目標

- ・声の出し方の調整、変声期の状況を確認して歌おう【知識・技能】
- ・PCを使用したパート練習を行い、自分のパートの音を覚えて歌おう。【思考・判断・表現】

2) 準備

合唱曲のプリント、GIGA パソコン（音源のダウンロードを済ませている）

3) 展開

学習場面	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
導入	校歌を歌う	○声の出し方に注意して歌う ・長い音符の長さに注意	○思いを込めて歌えた ・荒くならず丁寧に歌えた
展開	1 学年合唱曲の練習に入る		
	発声方法の確認 ・発声 ・姿勢 ・呼吸 ・口の開け方等	○声の出し方 男声、女声の順に行う。 注意：女声は、全員ソプラノとする ★どのように出したら響きのある美しい声が出るか工夫する	・男声：地声で歌える 喉を開いて歌える ・女声：頭声的発声で歌える ・男女共にきれいな声が出せるように感覚を掴ませる ◇姿勢・口の開け方・呼吸等について理解して、歌っている。
	2 音取り		
	GIGAPC を使って各自で音取りを始める 作業手順	・GIGA パソコンを忘れた ・ダウンロードしていない 対応：2人組にして練習する	

	<p>①自分のパートの音を聞く</p> <p>②自分のパートの音を覚える</p> <p>③実際のその音を声を出す</p>	<p>・自分の声があるかどうか分からない生徒</p> <p>・上手く歌えない生徒</p> <p>対処①：こちらから確認し伝える</p> <p>対処②：友達に教えてもらう</p>	<p>・音を聞くことができたか</p> <p>・音を覚えることができたか</p> <p>・大きい声を出して歌うことができたか</p>
	<p>3 合唱</p> <p>①最初の8小節のみ繰り返しをしながら合唱する</p> <p>②その次の8小節を歌う</p>	<p>・男声が女声につられていないか</p> <p>・男声が女声につられていないか</p>	<p>◇練習したパートの音をしっかりと歌っている</p> <p>◇相手のパートの音を聞きながら歌っている</p> <p>◇自分の声の出し方に注意し、て歌を歌っている。</p>
まとめ	部分合唱をして	・発声、音程等がきちんと取れたかどうか	<p>・実際に歌ってみてどのように感じたか</p> <p>・発声で学んだ声が出せたか</p>
	次回の予告		・残りの部分のを学習します。

## 音楽科要請訪問 指導内容

指導主事：磯 奈穂子先生

### 1 指導案について

- ・ 4 教材観の学習指導要領が古いものなので、新しいものに変更を。
- ・ 7 題材目標の学習指導要領が古いものなので、新しいものに変更を。
- ・ 8 単元計画ではなく題材計画と変更を
- ・ 9 音楽の評価規準
  - ① 観点1 身に付けている。工夫は観点2、及び、観点3へ
  - ② 観点1に発声の方法、姿勢などの記入
- ・ 10 本時の学習 1)で、「自分のパートの音を覚えて歌おう」ではなく、「正しい音を取る」
- ・ 10 本時の学習 3)展開
  - ① 口の開け方⇒喉を開くやアゴを開けるのほうがいい。
  - ② 肩幅⇒開きすぎる生徒もいるので、げんこつ2つ分ぐらいのほうがいい。
  - ③ ★どのように・・・ はカット

### 2 指導案以外

- ・ PCの音ではなくヘッドフォンが使えないか？
- ・ TVでの鑑賞では、音源はステレオで流したい。
- ・ 小中の連携について、より深い確認が必要だと思う。



# 南中学校 家庭科学習指導案

授業学級	第 1 学年 5 組
単元名	日常着の手入れを工夫しよう
授業者	横田 未羽



## 第1学年5組 技術・家庭【家庭分野】学習指導案

日 時 令和7年11月20日(木) 第2校時  
生徒数 男子17名 女子17名 計 34名  
活動場所 1階家庭科被服室  
指導者 教諭 横田 未羽

### 1 題材名 『日常着の手入りを工夫しよう』 B(4)ア(イ)、イ

### 2 題材について

#### (1) 生徒の実態

中学校での家庭科の学習が始まったばかりであるが、全般的に学習への関心が高く、小学校で学んだ知識を活かしながら、授業においては積極的に発言する生徒が多く見られる。知的好奇心や学ぶ意欲は十分に備えていると言える。

一方で、自分の衣服の手入れや洗濯といった実践的な活動については、保護者に任せきりである生徒が多数を占めているのが現状である。このことから、家庭生活における自立や主体的な役割遂行の意識が低く、学んだ知識を「自分事」として捉え、実際の生活行動に結び付ける力には課題がある。

#### (2) 題材観

この題材では、衣服を快適に着用するために、衣服を計画的に活用することの必要性が分かり、衣服の材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯と衣服の状態に応じた補修等の手入れについて理解し、適切にできるようにすることをねらいとする。また、衣服の選択や手入れの課題を解決するために、身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を活用し、健康・快適などの視点から、衣服の選択及び手入れの仕方を考え、工夫し実践できるようにすることを目指したい。

#### (3) 指導観

本題材では、知識・技能の習得において、生活に密着した実践的・体験的な学習を重ねる必要がある。生徒自身が生活の中において課題意識を持ち、「家庭でもやってみよう」と思える動機づけを行い、「保護者に任せる」状態から「自分で計画・実行できる」状態へと変容させるための力を育成したい。

また、事前の家庭への調査を実施し、生徒が衣服の手入れを自分事として捉え、興味関心を持って授業へ向かうことができるように働きかけを行う。

### 3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は技術・家庭【家庭分野】における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実」
家庭分野	・日々の生活を振り返り、実生活とリンクさせながら生徒から問いを引き出す工夫	・課題解決に向けて、生徒が必要感をもって話し合う場面の意図的な設定

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
家庭分野	・自分の生活を振り返って適切な課題を決める	・各個人の意見を持ち、班活動に参加する ・身に付けてほしい力を都度生徒が確認できるようにする

#### 4 題材の目標

- ・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解できるとともに、適切にできるようにする。 【知識及び技能】
- ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。 【思考力・判断力・表現力等】
- ・よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

#### 5 題材計画と評価及び主題にせまる学習活動

小 題 材	時間	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
衣服の 選 択	1	これまでの衣生活を振り返り、問題を見出して課題を設定する。	生活を豊かにするための問題を見出し、自分の生活に即した課題を設定できている。	<b>多様性</b> 自分の生活を見つめ直し、段階に応じた課題を設定する。
日常 着 の 手 入 れ	2 ・ 3	衣服の状態に応じた手入れの必要性が分かり、適切な手入れの方法について理解しているとともに、適切にできる。	衣服を快適に着用するために、衣服の素材や繊維の性質、取り扱い表示を理解し、適切に手入れができている。	<b>主体性</b> 自分の身の回りにある衣服の取り扱い表示を見て、その意味を調べる。
	4 本時	洗濯機の使用方法和、洗濯機を使用する際の留意点が分かる。		<b>多様性</b> 洗濯機を使用する前に留意することについて、グループで話し合いまとめる。

衣服計画	5	衣服計画を自分なりに立て、既製服を選ぶ視点を自分なりにまとめることができる。	着用場面や用途を想像しながら、適切な衣服の選択について考え、実践することができる。	<b>主体性</b> 自らの生活を創造して場面設定を行い、その目的に合った衣服を選択する。
------	---	--	---	--

6 本時の学習指導（4／5時）

(1) 本時の目標

- ・手入れに関わる基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方を理解し、衣服の材料や汚れ方に応じた洗濯の仕方について理解している。【知識・技能】
- ・家庭で洗濯機を使用した洗濯を実践する際の問題を見だし解決策を構想して、表現できている。【思考・判断・表現】

(2) 準備

- ・絵カード

(3) 展開（★「連携」の視点は別紙参照）

学習場面	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
導入	1 既習事項を確認する	○取り扱い表示と素材の特徴について、中学生が日常着として着用することの多い綿、毛、ポリエステルを復習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での例を挙げて、本時の内容に興味を持たせる。</li> </ul>
	2 生活を振り返る	○普段の生活では、どのように洗濯をしているのか、事前に調査してきた結果を共有する。 ・色物は分けて洗濯する。 ・汚れのひどいものは、手洗いをしてから洗濯機で洗う。	
	3 課題を確認する	<p style="text-align: center;"><b>衣服の材料や汚れ方に応じた日常着の洗濯の仕方を工夫しよう</b></p> <p style="text-align: center;"><b>★視点：子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実</b>  <b>中学校技術・家庭【家庭分野】手立て①</b>  <b>『日々の生活を振り返り、実生活とリンクさせながら生徒から問いを引き出す工夫』</b></p>	
展開	4 設定された場面に応じた洗濯の仕方を考える（個人→班）	○各班に提示した日常着の汚れや素材を見て、洗濯機に入れる前に確認したい項目や洗濯機での洗濯で留意する事項を個人で考える。 ・毛のセーター：中性洗剤を使う。 ・色物のTシャツ：白いシャツなどと一緒に洗濯しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示する場面設定は、生徒が身近に感じるものとする。</li> <li>・なぜそう考えたのか、根拠となるものも示すことができるように伝</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コーヒーがついたTシャツ：しみ抜きをして、洗濯機で洗濯をする。</li> <li>・ カレーがついた体操着：手洗いをして落ちなかったら、漂白剤を使う。</li> <li>・ 外で運動をした後の靴下：手洗いしてから、洗濯機で洗濯をする。</li> <li>・ 泥はねしたジャージ：乾いた状態ではたいてから洗濯機で洗う。</li> <li>・ 襟の黄ばみが気になるYシャツ：ぬるま湯と洗剤で揉み洗いしてから、洗濯機で洗う。</li> <li>・ 家庭での洗濯ができないスラックス：クリーニングに出す。</li> <li>・ 口紅がついたハンカチ：クレンジングオイルをなじませてから、洗濯する。</li> </ul>	<p>える。</p>
	<p>5 各班で考察した洗濯の方法を、クラスで発表する。</p>	<div data-bbox="577 846 1420 1003" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>★視点：子どもが楽しさを見いだす学びの工夫          中学校技術・家庭【家庭分野】手立て②          『各個人の意見を持ち、班活動に参加する』</p> </div> <p>○個人で考えた内容を班で共有し、より良い洗濯の工夫を考え、深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 洗剤の選択するときに、取り扱い表示を見たほうが良い。</li> <li>・ 素材によっては、洗濯機を使用しないほうが良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人活動で考えたことをもとに、全員が意見を述べる機会を設けさせる。</li> <li>・ 班活動の時間からは、タブレット端末で調べられるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="1101 1415 1410 2024" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇【知識・技能】          手入れに関わる基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方を理解し、衣服の材料や汚れ方に応じた洗濯の仕方について理解している。(発表、ワークシート)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価 B に達しない生徒への支援</p> <p>→既習事項を見返しながら、活動に取り組むように助言する。</p> </div>

		<p>○オクリンクプラスを用いて、自分たちの班で考えた洗濯の工夫や気づきを発表する。</p> <p><b>★視点：子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実</b>  <b>中学校技術・家庭【家庭分野】手立て②</b>  <b>『課題解決に向けて、生徒が必要感をもって話し合う場面の意図的な設定』</b></p>	
終末	<p>6 まとめ</p> <p>7 振り返りシートを記入する</p>	<p>○学習のまとめをする。</p> <p>・素材や取り扱い表示を見たり、汚れ具合・種類に応じた下洗いをしたり、洗濯の工夫をすることで衣服を長持ちさせることができる。</p> <p><b>★視点：子どもが楽しさを見いだす学びの工夫</b>  <b>中学校技術・家庭【家庭分野】手立て①</b>  <b>『自分の生活を振り返って適切な課題を決める』</b></p>	<p>◇【思考・判断・表現】家庭で洗濯機を使用した洗濯を実践する際の問題を見いだし解決策を構想して、記入できている。  (ワークシート)</p> <p><b>評価 B に達しない生徒への支援</b></p> <p>→自分が家庭でも実践できそうなことはあったか問いかける。</p>

○ご指導いただいた点

- ・既習事項を関連付けたり、実態の調査を行ったりして授業を実施する。

小学校での学びを活かす、繋がる授業を。→手洗いによる洗濯は既習済みであることから、これが生徒の意見として出てきたのは良かった。

学習指導案に、実態把握ができるようなアンケートの結果等のデータを入れるとより充実したものになる。題材の設定理由や個の変容が見て取れるような実態の調査を行うと良い。

- ・学習指導要領に書かれた内容を授業で取り扱う。

教科書を教えるのではなく、教科書で教える。抑えるべきは学習指導要領なので、授業で取り扱わなければならない事項及び不要な事項をよく把握し、授業を毎度振り返り返す。今回の授業では、不要なものがあったので、今後よく吟味する。逆に触れきれていない部分もあったので、次回以降の授業で補足を行うこと。

教科書は三観点を意識して使用する。なぜそれを使用するのか、ねらいを持って扱うこと。

- ・形成的評価を意識する。

題材の中間評価になるので、生徒一人ひとりの思考のプロセスやどのように学びに向かっているかを評価できるように意識する。また、指導に活かす評価の実施を。

- ・授業の実施方法について

ジェンダー等、教師の価値観を植え付けないように意識する。

分かりやすい授業とは、学びのユニバーサルデザインが意識されているもの。『視覚化』『課題の焦点化』『思考の共有化』を心がける。

生活に直結する学び、実践に繋がる内容を取り扱う。家庭に持ち帰った時にすぐに使えるような知識技能を。今回の授業では、靴下の洗い方は全員が自分事と捉えることができるので、これについて触れることができると良かった。

# 南中学校 技術科学学習指導案

授業学級	第 2 学年 5 組
単元名	エネルギー変換の技術 いろいろな発電方法を知る
授業者	佐藤 和芳



# 第2学年5組 技術・家庭科学習指導案

日 時 令和7年11月13日(木) 第5校時  
 活動場所 2年5組教室  
 生徒数 男子20名 女子21名 合計41名  
 授業者 教諭 佐藤和芳

## 1 題材名・教材名 エネルギー変換の技術 いろいろな発電方法を知る

### 2 生徒の実態と本題材の意図

#### (1) 生徒観

生徒は大変まじめな者が多く、技術室での授業に積極的に参加している。エネルギー変換の技術についての知識は十分とはいえないが、教師の問いかけに素直に答え、自己の生活に密着したエネルギーの果たす役割について前向きに考えている。教科書にある知識をもとに各家庭の様子を振り返り、電気エネルギーの果たす役割について知ることができている。これからの日本のエネルギー事情を想定して、各自ができること、社会生活の中でみんなができることをよく考え、今後の生活が豊かなものになってほしいと期待している。

#### (2) 教材観

エネルギー変換の中でも、特に電気エネルギーを生み出す様々な方法について知ることを通して、社会からの要求や、経済的な要求、環境への配慮など、様々な事項を考慮に入れながら、発電効率のいい、環境にやさしい再生可能エネルギーの必要性について検討をさせたい。化石燃料の枯渇や、原子力エネルギーの良い面・悪い面に目を向けて、将来の日本にふさわしいエネルギーミックスを実現させる必要性を学べるものと考え。

#### (3) 指導観

GIGA・PCを活用して、自らの力によって考えを深めるとともに、グループ活動を通して他者の意見に耳を傾け、広い視野に立った的確な判断力を身に付けさせたい。そのためには多くの資料と話し合いの場を十分に持って、それぞれの発電方法の成り立ちやその歴史なども知ることで、よりよい判断ができるようになる。また、海外の発電事情なども参考にしてほしい。これらのことを通して、他国に誇れる日本のエネルギー発電のすばらしさに関心を高めさせたい。

### 3 研究主題との関わり

研究テーマ 「学びをつなげ、夢をはぐくみ、未来を拓く、連携教育の推進」  
 ～多様性を尊重したかかわりの中で、  
 主体的に学び続ける子供たちの育成を目指して～

以下は技術・家庭における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子供が様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①生徒が自分の考えを持つための工夫	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実」
技術・家庭科	・調べる対象を決めさせる	・他者の意見を聞く時間を十分設定する

舟戸学園	視点：主体性『子供が楽しさを見出す学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
	・自分の生活を振り返って適切な課題を決めさせる	・各個人の意見を持たせてから班活動に参加させる

### 4 題材の目標

・生活や社会で利用されている エネルギー変換の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み、保守点検の必要性及び、エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができる技能を身に付けている。

【知識及び技能】

・災害時に想定される問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているとともに、安全な社会の構築を目指してエネルギー変換の技術を評価し、適切に選択、管理・運用、改良、応用する力を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力等】

・安全な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、エネルギー変換の技術を工夫し創造しようとしている。

【学びに向かう力・人間性等】

## 5 題材計画と評価及び主題に迫る学習活動

	本時の目標	目標を達成した生徒の姿 (評価)	「多様性・主体性」の視点に 基づく学習活動
1・2 ・3	生活や社会の中で利用されているエネルギー変換の技術について概略を知る。 発電の仕組みと特徴について理解を深める。	生活を支えるエネルギー変換について日本の大まかな状況を理解している。 いろいろな発電方法について理解している。	<b>多様性</b> 日本の実情を話し合い、電気の使われ方について多角的にとらえることができる。
4・5・ 6・7	さまざまな発電方法のプラス面、マイナス面について調べ、適切な発電構成割合について自分なりに考える。	発電方法ごとの良さや弱点を知り、日本の実情に合った最適な発電方法を考えている。	<b>多様性</b> 他者の考えや意見を取り入れる。 <b>主体性</b> 自分の意見をしっかり持つ。
8・9	送電・配電について調べる。 電気を安全に使うための技術の工夫について調べ、まとめる。	安全に使うための技術の工夫を理解している。	<b>主体性</b> 安全な取り扱い方について自分でも気づけるようになる。
10・ 11	機械の運動の種類とエネルギー変換についてまとめる。 ・直線運動 ・回転運動 ・揺動運動	自転車を例にあげてその結びつきなどを考えている。	<b>主体性</b> いろいろな機械のエネルギーの伝わり方について考えることができる。
12	機械の共通部品について知る。 機械を安全に利用するために保守点検が必要であることを知る	安全な取り扱い方や、常に安全を意識した保守点検について理解している。	<b>多様性</b> 安全な使用に関して互いに意見を言い合いながら、他者の意見を取り入れて安全についての意識を深める。
13 ～17	問題を発見し、課題を設定する（緊急時に使えるラジオの製作）	製作を進める中で作品作りの楽しさを味わう。 問題を発見し課題を設定している。	<b>主体性</b> 自分の製品を作り上げるという気持ちをもって楽しく製作を進める。
18・ 19	エネルギー変換の技術による問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価する。	社会の中でラジオ（情報機器として）の果たす役割を考えるとともに、整備な部品が製品を作り上げているということに気づく。 改善・修正する方法について考える。	<b>多様性</b> グループで話し合いながら製作を進める中で意見交換をして、製品の果たす役割を知る。
20	持続可能な社会の構築のために、これからのエネルギー変換の技術について考える。	これからの日本を考えに入れて、持続可能な社会のためにエネルギーの果たす役割について考えている。	<b>多様性</b> 他者の発言を聞きながらより良い社会の在り方について考えを深めることができる。

## 6 評価計画

知識・技能	定期テスト、技能テスト、技能のチェック
思考・判断・表現	ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	発言、行動観察、グループでの話し合いの内容、ワークシート

## 7 本時の学習指導（本時4／20）

### (1) 本時の目標

さまざまな発電方法を知り、他者の意見に耳を傾け自身の考えに生かす。

- ・さまざまな発電方法を知る【知識・技能】
- ・他者の意見を自身の考えに取り入れる【主体的に学習に取り組む態度】

(2)本時の展開

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
導入 5分	<p>既存の学習内容を教科書のページを見ながら復習する</p> <p>学習課題の確認</p>	<p>・小学校の時に学んだ知識を発表する</p> <p>いろいろな発電方法を知る</p>	<p>・小学校で学んだことの上にさらに学びを深めることを伝える</p>
展開 40分	<p>・発電方法を思いつくものを書き出す</p> <p>・発表する</p> <p>・ワークシートの③(自身の考える理想の発電方法5つ)を記入</p> <p>・発表</p> <p>・発電の「利点」に着目して調べてワークシートを記入する</p> <p>・はじめは個人で、続いてグループで協議しながら進める</p> <p>・エネルギー変換効率についての説明を聞く</p> <p>・発電の「利点」を記入することを再開する</p> <p>・各班から発表を行う</p>	<p>・原子力発電 ・風力発電 ・地熱発電</p> <p>・発表を聞き、ワークシートに書き加える</p> <p>○それぞれの発電方法の良い点に着目してその良さを知る</p> <p>○今まで知らなかった発電方法とその良さを知る</p>	<p>ワークシート配布</p> <p>・他者の発表に耳を傾けさせる</p> <p>・自分の考えを理由も考えさせながら記入させる</p> <p>・他者の発表に耳を傾けさせる</p> <p>・先に班の発表者を決めさせる</p> <p>◇【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を取り入れ自身の考えに取り入れる (行動観察) 評価Bに達していない生徒への支援 →個別に声をかけ教科書を参考にして考えさせる</p>

ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業を振り返る</li> <li>・次回の学習について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 海外の様子</li> <li>② 発電の問題点</li> <li>③ いい発電方法なのになぜ広まらないのか</li> </ul> </li> <li>などを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発電の「問題点」を調べる</li> <li>○海外の発電の様子</li> <li>○水力発電の歴史</li> <li>・いい発電方法なのになぜ広まらないのか？</li> <li>・問題点があるのにつかわれるのか？</li> <li>・あなたの考えをまとめる</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇【知識・技能】</p> <p>さまざまな発電方法を知る (ワークシート)</p> <p>評価Bに達していない生徒への支援</p> <p>→個別に対応しアドバイスを 行う</p> </div>
-----------------------	---	---	--

- ・さまざまな発電方法を知る【知識・技能】
- ・他者の意見を取り入れ自身の考えに取り入れる【主体的に学習に取り組む態度】

令和7年11月13日（木）研究授業 指導内容

教 科：技術・家庭（技術分野）

担当授業者：佐藤 和芳（文責：佐藤）

指導主事：高安 紀行 指導主事

高安指導主事からの話

（1）授業の全体的なこと

- 授業規律ができています
- 掲示物が大きくて見やすい
- 指示が短かく簡潔である
  - ◇ 生徒がよく支持を守って動いている
  - ◇ 日頃の指導が行き届いているからであろう
- ワークシートがよくできている
  - ◇ 生徒に考えさせるポイントがまとまっている
- 個別・協働・アドバイスのタイミングが良い

（2）市の技術・家庭科で努力すべきことに関連すること

- 既存の学習を生かし「技術の『見方・考え方』に気付く」ができています
- どのような場面で「協働的な場面」を意図的に作るかが設定されている
- 「次の問題の解決の視点」への結びつきができています

（3）研究主題の「多様性」と「主体性」との関連について

- 「多様性」について
  - 意図的に生徒が交流する学びの場の確保について
    - ◇ 時間を十分にとって設定されている
  - 班活動を通して他者の意見を聞く場面が確保されている
    - ◇ PCを活用して多角的に物事を考え調べる場面を作れている
- 「主体性」について
  - 生徒が楽しさを見出す学びの工夫・充実について
    - ◇ 初めに生徒個人の考えを持たせてから班で話し合うように進めていた
    - ◇ 自身の生活を振り返って関連性を持たせて調べさせていた



# 南中学校 体育科学習指導案

授業学級	第 2 学年 1,2 組
单元名	「器械運動」(跳び箱運動)
授業者	新垣 樹



令和 7 年 11 月 19 日 (水) 第 5 校時 アリーナ  
 第 2 学年 1・2 組 男子 21 名 女子 20 名 計 41 名  
 川口市立南中学校 教諭 新垣 樹

1 単元名 「器械運動」(跳び箱運動)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

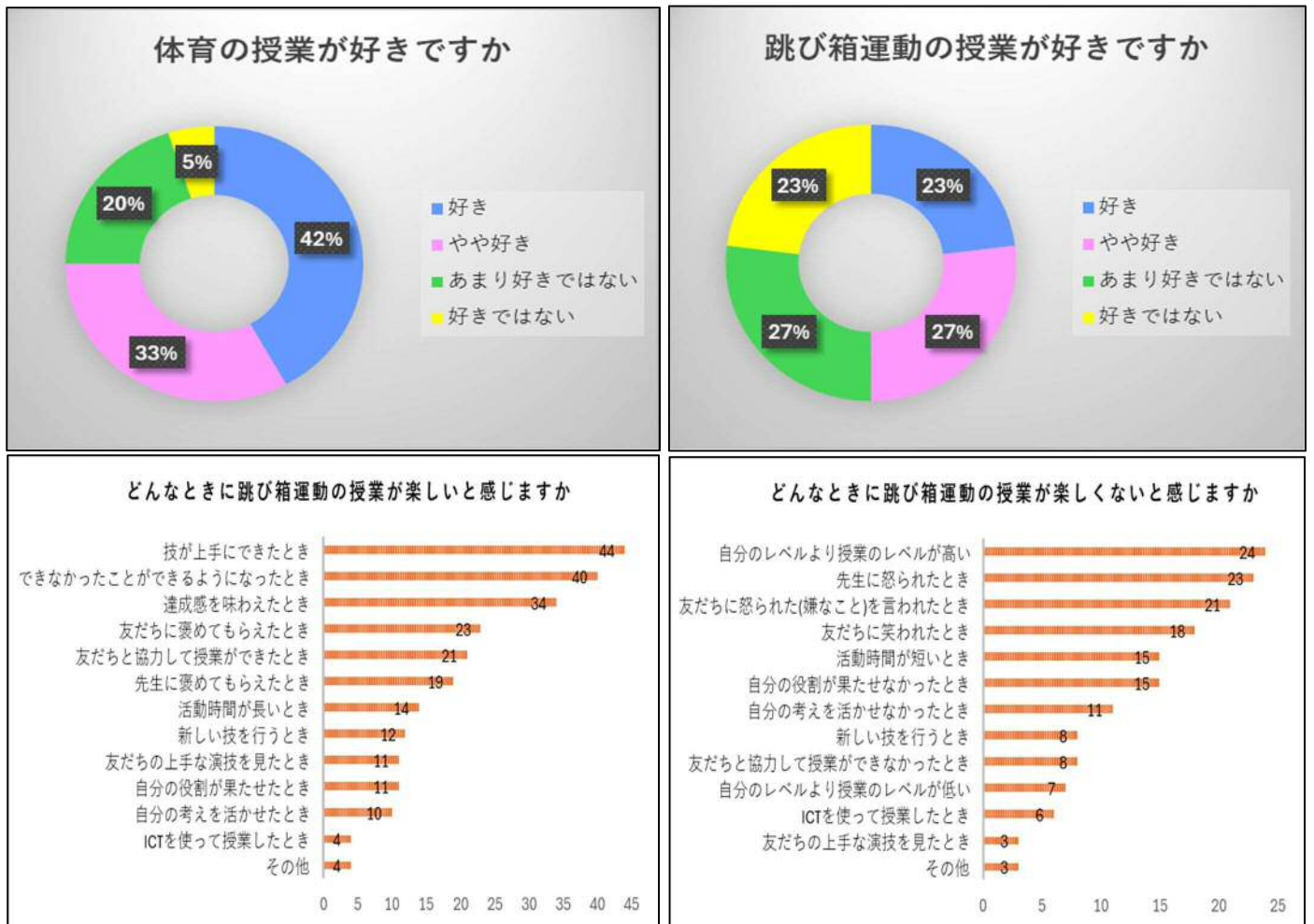
器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、運動種目に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

中学校では、これらの学習を受けて、技がよりよくできることや自己に適した技で演技することが求められる。跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うことや、条件を変えた技、発展技を行うことで、楽しみや喜びを味わうことができる。また、よい演技を認めることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることができるようになる。

(2) 生徒から見た特性

跳び箱運動の楽しさや喜びを感じる要因	跳び箱運動を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"> <li>・技がより美しく上手にできるようになったとき</li> <li>・新しい技に挑戦しているとき</li> <li>・仲間に褒められたとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習しても技ができないとき</li> <li>・落下したりぶつかったりするかもしれない恐怖心</li> <li>・できる技がないとき</li> </ul>

3 生徒の実態



### (1) 知識及び技能

昨年度のマット運動において前転や後転といった基本的な技にも苦戦する生徒が多く、全体の課題技として開脚前転や開脚後転を設定したこともあり、跳び箱運動でも似たような状況が予想できた。

跳び箱運動に関するアンケートでは、「跳び箱運動でできる技」という質問項目に対して「開脚跳び」という回答が圧倒的に多く、「かかえこみ跳び」や「台上前転」は合わせて3分の1程度、「できる技がない」と答える生徒も複数いた。また、知っている技についても「開脚跳び」、「台上前転」が多く、技の名称や技そのものを理解していない生徒も見受けられた。

### (2) 思考力、判断力、表現力等

話し合いの中で気づいたことを伝えたり、助言したりすることができる生徒が多い。しかし、状況を判断することや比較することが苦手な生徒も多く、ねらいから外れた内容になってしまうことがある。また、自信がなく伝えられなかったり、コミュニケーションをとったりすることが苦手な生徒もいる。

### (3) 学びに向かう力、人間性等

事前のアンケートでは、8割近くの生徒が保健体育の授業が好き・やや好きと意欲的に取り組んでいることがわかる。対して、跳び箱運動に関しては半分近くの生徒があまり好きではない・好きではないと回答しており、運動を好き・得意としている子でも「跳び箱だけは嫌い」、「これまでできるようにならなかった」と後ろ向きな様子が感じられる。

## 4 教師の指導観

### (1) 知識及び技能

小学校までに履修している基本的な技を含め、技それぞれに難度とできばえ点を設定し、自分の力に合わせて挑戦できるようにする。動画教材や掲示資料を用いて挑戦する技の模範となる動きを理解させたり、課題を解決するための練習方法を選択させたりしていき、できばえ点一覧表で目指す点数や目指す動きをグループ内で共有させながら、適切な助言や評価を行っていきけるようにする。

### (2) 思考力、判断力、表現力等

自分の課題に挑戦しながら、仲間の目指す動きのために改善する練習方法やコツを選択し、伝え、評価する活動を行っていくことで、自分自身の課題解決にも繋げさせる。タブレットで技を実施している様子を撮影し、模範動画や前回までの自分の動きと客観的に比べられるようにする。撮影した動画や画像は振り返りにも使用させる。

### (3) 学びに向かう力、人間性等

生徒が少しでも意欲的に取り組めるよう、技ごとに難度を設定するとともに、技によってはできばえ点の一番低い点が「跳べていない」という状態を設定することで、より自分にあった課題を選択できるようにした。試技会の際は、踏み切り点と着地点も評価することで、得点を伸ばせる可能性を作るとともに、生徒同士で役割をもって評価することで、互いの演技に助言や賞賛を贈る機会を作り、達成感を味わわせたい。

## 5 研究主題とのかかわり（別紙参照）

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

〈本单元における手立て〉

【手立て1】魅力や特性に応じた楽しさや喜びを味わうことができる教材・教具の工夫 ★2

### (1) 「技難度・できばえ点一覧表」の活用

それぞれの技の難度とできばえ点（評価ポイント）を一覧にすることで、自分のレベルに合わせた技を

選択し、課題解決練習に取り組むことができる。「技難度・できばえ点一覧表」の得点が試技会の採点ともリンクしているので、試技会に向けて現段階と目指す動きを確認しながら練習に取り組むことができる。生徒同士でのアドバイスや評価の視点もしぼられる。

## (2) 試技会の実施と「採点シート」の活用

試技会に向けて練習してきた成果を仲間に採点してもらい、最初のできばえからの成長を得点でも感じることができるようにさせる。また、試技会の採点においては採点の中心となる「できばえ点」の他に、「踏み切り点」と「着地点」を採点するシートを活用することで、できばえ点が伸び悩んだとしても加点できる可能性を増やし、意欲をもたせる。

### 【手立て2】課題の発見、解決に向けての話し合い活動の充実 ★1

#### (1) 同質・異質のグループ活動、仲間に適切なアドバイスをするための情報収集

ねらい①の基本的な技に取り組む授業では、同じ技に挑戦する仲間と同質グループを組んで練習に取り組む。その中で、互いの課題解決に向けて適切なアドバイスができるよう情報収集する時間を設け、話し合い活動が充実することを目指す。

ねらい②の基本的な技をより高めることや、発展技、条件を変えた技に取り組む授業では、繰り返し系と回転系に分かれた中でバラバラの技に挑戦する仲間と異質グループを組んで練習に取り組む。同じ系統技の練習を通して、似たような課題に対する練習方法や注意点を共有することで課題解決を目指す。

### 【手立て3】GIGA スクール端末の効果的な活用 ★2

#### (1) 練習方法やコツの探究

教師の提示する資料だけでなく、挑戦する技に関する情報や動画を自分で収集し、自分や仲間に適した練習方法やコツを選ぶことで意欲的に取り組めるようにする。

#### (2) 技能の伸びを客観的にとらえる、振り返りの工夫

自分や仲間の動きを撮影することで、課題点や伸びを客観的にとらえることができるようにする。試技会の際にも撮影して提出させる。また、Teams の課題機能を活用し、授業の振り返りを行うことで、生徒は画像や動画も使いながら比較や分析をすることができる。

## 6 単元の目標

- (1) 跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、発展技を行うことができるようになる。 【知識及び技能】
- (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

## 7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①繰り返し系、回転系の技の行い方やポイントについて言ったり書きたたりしている。	①自己や仲間の課題を見つけ、解決のために適切な練習の方法や場を選んでいる。	①跳び箱運動に積極的に取り組もうとするとともに、よい演技を認めようとしている。
②繰り返し系、回転系の基本的な技または発展技ができる。	②課題解決に向けて、調べた情報や自己の考えを伝えようとしている。	②安全に留意し、練習の行い方や場の整備、用具の取り扱いに気を配ろうとしている。

8 指導及び評価計画（8時間扱い） 本時は○印 5/8時

時間	1	2	3	4	⑤	6	7	8	
ねらい	・運動の特性や学習のねらい、計画を理解しよう。 ・基本的な動きの確認。	ねらい①基本的な技が滑らかにできるようにする 切り返し系・開脚跳び・かかえこみ跳び 回転系・台上前転・頭はね跳び				ねらい② ねらい①で行った技をより高めることや、発展技に挑戦する			
指導内容	・特性 ・約束事 ・役割分担 等	○技能ポイント・踏み切り方 ・突き放し方 ・着地の仕方 ○練習方法 ○補助の仕方 ○ICTの活用の仕方	仲間適切なアドバイスをしよう。	試技会に向けて技を極めよう。	試技会を行い、学習の成果を確認しよう。	課題とする技の行い方と今のできばえを知ろう。	試技会に向けて、仲間と協力しながら技を極めよう。	試技会を行い、学習の成果を確認しよう。	
学習過程	1 集合、整列、出欠確認、健康観察、挨拶 2 オリエンテーション 3 器具の準備 4 準備運動、補強運動、感覚づくりの運動 5 学習のまとめと整理運動、片付け	1 器具の準備 2 集合、整列、出欠確認、健康観察、挨拶 3 準備運動、感覚づくりの運動 4 本時のねらいの確認							
		5 基本の技を行い、今のできばえと課題を確認する 〈前半〉 ・開脚跳び or ・かかえこみ跳び 〈後半〉 ・台上前転 or ・頭はね跳び ▲同質グループ 6 学習のまとめ、整理運動、片付け	5 ICTを活用し、仲間の上達に向けたアドバイスのポイントや練習方法等を見つける 6 見つけた情報をもとに仲間アドバイスしながら練習する 7 模擬試技 ※5～7の活動を前半〈切り返し系〉後半〈回転系〉でそれぞれ行う ▲同質グループ	5 一連の動きで滑らかにいき、より高いできばえになるよう練習する 6 模擬試技 ※5、6の活動を前半〈切り返し系〉後半〈回転系〉でそれぞれ行う ▲同質グループ	5 試技会で行う技の練習 6 基本的な技の試技会 前半〈切り返し系〉後半〈回転系〉 ▲同質グループ 7 学習の成果を確認	5 課題とする技の今のできばえと課題を確認する 6 より高いできばえになるよう練習する ※切り返し系と回転系に分かれる △異質グループ 7 模擬試技	5 より高いできばえになるようアドバイスや補助をしながら練習する △異質グループ 6 模擬試技	5 試技会で行う技の練習 6 課題とする技の試技会 △異質グループ 7 学習の成果を確認	
		8(7) 整理運動 9(8) 学習の振り返り、片付け							
評価計画	知技	①			②		①	②	
	思判表		①②	①②			①②		
	態	②				①		①	
	方法	観察	観察・振り返り	観察・振り返り	観察・振り返り	観察・振り返り・映像	観察・振り返り	観察・振り返り	観察・振り返り・映像
	場面	2・3・4	5	5・6	5	5・6	5・6	5	5・6

9 本時の学習と指導（5／8時）

(1) ねらい①基本的な技の試技会を行い、学習の成果を確認しよう 【知識及び技能】

②練習や試技会に積極的に参加し、仲間の演技に対して賞賛の声をかけよう

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 準備 ・跳び箱・ロイター板・調整板・マット・多目的BOX・ホワイトボード・デジタルタイマー  
・タブレットPC・採点シート・筆記用具

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導，◆評価規準）
導入 5分	1 器具の準備 2 集合整列、出席確認、健康観察、挨拶 3 準備運動、ストレッチ	○安全に留意しながら準備するよう指示をする。 ○チャイム前に集合、整列ができるよう声をかける。 ○使う部位や動きに気を付けながら行えるよう声をかける。
展開 40分	4 本時のねらい、内容の確認 基本の技の試技会を行い、学習の成果を確認しよう。積極的に試技会に参加し、仲間に称賛の声をかけよう。 5 試技会で挑戦する技を練習する。 ・切り返し系(6分)、回転系(6分) ・できばえポイントや踏み切り、着地のポイントを意識しながら練習をする。 6 試技会 ・役割分担を確認し、グループ内で切り返し系の技の試技会を行う。(踏み切り、できばえ、着地) ・全員が切り返し系の技を終えたら、回転系の技の試技会を行う。	○本時のねらいと学習の流れを確認する。 ○試技会採点シートに挑戦する技が記入されているか確認する。 ○切り返し系と回転系を時間で区切って練習させる。 ○できばえ点一覧表や採点シートの各ポイントを意識しながら練習するよう促す。★2 ○互いにアドバイスや補助をしながら練習させる。必要に応じて補助に入る。★1 ◆切り返し系、回転系の基本的な技ができる。【技能】 △努力を要すると判断される状況(C)の生徒への手立て ・できばえの改善点を助言する。 ・踏み切り点、着地点での加点を目指して練習するよう助言する。 ◎十分満足できると判断される状況(A)の生徒の具体的な姿 ・踏み切り点、できばえ点、着地点のポイントを押しえ滑らかに技を行えている。 ○グループ内での役割分担と試技の順番を確認させる。 ○真剣に試技を見て、評価し、賞賛やアドバイスを促すよう促す。 ○良い試技や惜しい試技などに積極的に声をかける。★1 ○試技会がスムーズに進むよう、笛の音に注目し、素早い行動や安全に配慮した行動を取るよう声をかける。 ○試技の際は静寂にさせる。 ◆積極的に試技会に参加し、仲間に賞賛の声をかけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 △努力を要すると判断される状況(C)の生徒への手立て ・言いやすい賞賛の言葉を助言する。 ◎十分満足できると判断される状況(A)の生徒の具体的な姿 ・進んで賞賛の声をかけている。 ・技能と関連しているワードを用いて賞賛している。
5分	7 整理運動、成果の確認 8 集合、振り返り、挨拶、片付け	○自己評価と相互評価をして成果の確認をさせる。★2 ○けがや体調不良者の確認をする。 ○成果を発表させ、賞賛したり励ましたりする。 ○次時の確認をし、挨拶、片付けをさせる。

## R6・7 保健体育課題研究会 授業発表における指導いただいた内容

- ・運動の得意な生徒が自分のペースで取り組みながらも、他の生徒の動きを観察し、アドバイスするなど主体的かつ協力的ながら課題に取り組んでいた様子が見られた。
  - ・他の生徒がアドバイスされていることを聞き、自分も修正しようとしている生徒がいた。
  - ・運動が苦手、あまり好きではなさそうな生徒も、極端に練習回数が少ないわけではなく、自分のやるべきことに取り組んでいる様子があった。
  - ・外国籍の生徒など自分のできること、できる場所を自身ではなかなか判断できない生徒に対して教師から適切な声かけ、補助があった。
  - ・教師が、失敗したがもうすぐ感覚をつかめそうな生徒に対して、すぐにリトライさせたことで、感覚をつかみ成功することに繋がっていた。
  - ・単元の途中で第1回の試技会を設けたことで、生徒の意欲を高められ、試技会後の課題設定や課題克服に必要な活動を明確にできる。
  - ・試技後にもらう賞賛の言葉やアドバイスの言葉を楽しみにしている様子が見られた。
  - ・練習の時間と試技会の時間で違った雰囲気を作れたことがよかった。
- 
- ・ループリック表の内容が生徒にもっと落とし込んでいると、この授業の前時となる「仲間に適切なアドバイスをする」ことをねらいとした授業がより良くなる。試技会での賞賛の言葉も内容が変わってくるかもしれない。
  - ・「知識及び技能」もこの授業内で評価するのであれば、教師がより具体的な技能ポイントを言えなければならない。
  - ・『できばえ点一覧表』を掲示していた、さらに大きく拡大し、評価ポイントの文言には載っていない「コツ」の部分を書き込んでおくと生徒もより意識できるのでは。
  - ・タブレットを使って技を撮影することはよいが、記録として残すのならカメラを使い、その場で確認するだけならば遅延アプリを使うなど使い分けた方がいいだろう。

# 南中学校 美術科学習指導案

授業学級	第 1 学年 1 組
単元名	そのものらしさを形にして
授業者	石田 結衣



# 第1学年1組 美術科学習指導案

日 時 令和7年10月8日(水) 第2校時  
生徒数 男子17名 女子17名 計34名  
活動場所 第一美術室  
指導者 石田 結衣

## 1 題材名

そのものらしさを形にして

## 2 題材について

### (1) 教材観

本題材では、2つのものを組み合わせて身近な自然物や人工物を立体で表現することで、ものの美しさやおもしろさ、質感の違いを感じ取らせたい。生徒がそのものらしさを表現する方法を考え、材料や用具を選択し、色や形の特徴を表現できるようにする。

### (2) 生徒の実態

本学級の生徒は本校に入学して初めて粘土で立体作品を制作する。これまでの授業ではデッサンに取り組み、ものを観察し、意欲的に活動している姿が多く見られた。本題材ではもの持つ形や色、質感を表現することが求められるが、生徒の作品の中には本物とは異なっているものも見受けられる。学習の目標や活動内容について理解し、よりそのものらしさのある作品の完成を目指すことが現在の課題である。

### (3) 指導観

本題材は、ものを多方面より観察し、色を塗り重ねるなどの工夫を取り入れながら表現する学習である。身近なものに興味をもってよく表現することで視野を広げ、生活の中に美術の発想のもとがあることを感じ取らせたい。関係図書を見たり、タブレットを使用したりして資料を活用し、作品を仕上げさせていきたい。

## 3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

## 4 題材の目標

- ・形や色彩、質感などに着目し、何かに見立てたりイメージを捉えたりして、粘土や絵の具などを工夫して表すことができる。(知識・技能)
- ・身近なものの特徴やイメージなどをもとに、形や色彩、質感などの表現の工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりすることができる。(思考・判断・表現)
- ・身近なものから捉えた特徴や、イメージなどを工夫して表すことに関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

5 題材計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1	学習する内容を理解し、アイデアを広げる。	プリントに作りたいもののイメージが描けている。	<b>主体性の視点</b> プリントを使用してアイデアを広げる。
2~4	色・形・質感に注目してそのものらしさを表す。	色を塗り重ねたり、形に変化を持たせたりしている。	<b>主体性の視点</b> 色を混ぜ合わせて本物に近いものを目指したり、用具を使って試行錯誤したりする。
5~9	色・形・質感に注目してそのものらしさを表す。他の生徒と意見を交換してより良い作品を目指す。	他の生徒の作品を鑑賞し、良さを見つけ、プリントに記録しながら自身の作品に活かそうとしている。	<b>多様性の視点</b> どんな工夫ができるか話し合ったり、相互にアドバイスをしたりする。
10	相互に作品を鑑賞し合い、見方や考え方を広げる。	作品の良さを見つけ、プリントに記入している。	<b>多様性の視点</b> 鑑賞会を行うことで、自身の作品にはない表現から学び、見方や考え方を広げる。

6 本時の学習計画（8／10時）

(1) 本時の目標

色・形・質感に注目してそのものらしさを表すことができる。

(2) 準備

○教師：粘土、アクリル絵の具、はさみ、爪楊枝、木材などの材料

○児童：筆記用具、タブレット PC

(3) 展開

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携」の視点	◇評価の視点 ・指導上の留意点
導入 5分	1 本時の授業の目標や活動内容を確認する。	○色、形、質感を表すための工夫を考えながら制作することを理解する。	
	本時の目標 色・形・質感に注目してそのものらしさを表すことができる。		
展開 40分	2 どのような工夫ができるかについて話し合い、考えをプリントに記入しながら作り方を考える。	○他の生徒の意見を取り入れることで、新たな表現を知る。 ★視点：子どもが楽しさを見いだす学びの工夫・充実 舟戸小の手立て① 問題解決や話し合い活動での立場・視点等提示	・関係図書を見せたり、タブレットを使用したりして本物と見比べられるようにする。 ◇自分の意見や他の生徒の意見をプリントに記録し、表現の工夫を考えることができる。

	3 はさみや爪楊枝などの用具を使いながら作品を制作する。	○形や色、質感の表現方法を学ぶ。 ・絵の具を塗り重ねて作る。 ・はさみを使って尖った部分を作る。	・粘土だけで作っている生徒に対しては、木材などの異なる材料や用具の使用を促す。
整理 5 分	4 色や形などについて気付いたことや、どのような表現をしたのかを書き、活動の振り返りを行う。	○活動を振り返ることで、今日できたこと・できなかったことを認識し、次回の制作に繋げたり見通しを持って制作したりできるようにする。	

## 指導主事による指導内容

石田 結衣

### 良かった点

- ・何分間活動するのかという時間の指示があったこと。タイマーを使用したこと。
- ・教師が話す時間を手短にしていること。説明の後に「分かりましたか」「できますか」と生徒との意思疎通をしていたこと。
- ・マイクを使用することで、後方の座席にいる生徒にはっきりと声が届くようになったこと。
- ・材料置き場を作ったことで、生徒の動線が改善されたこと。

### 改善点

- ・机に教科書などのものがあり、引き出しに収納するようにすること。
- ・生徒が美術を学ぶ意味や、必要感を持てるようにすること。
- ・教師と生徒の対話を増やし、信頼関係を強めること。生徒から質問が出ると良い。
- ・題材は、写実的にするのか、アイデアや面白さを求めるのか、どちらかに重点を置いた方が良い。
- ・材料は、写実的に作る場合は軽量粘土ではなく重みのあるものを使用した方が良い。

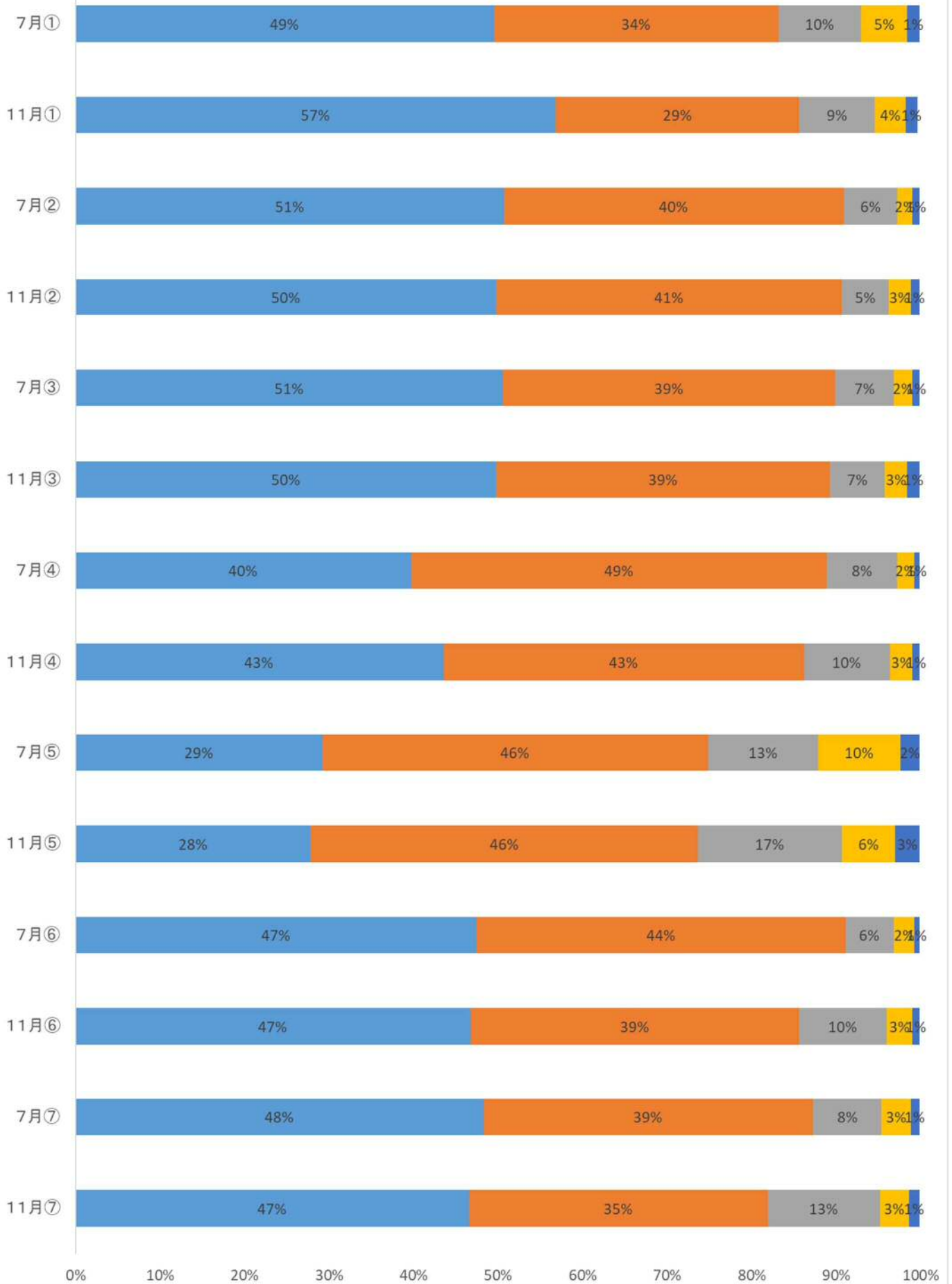
# 南中学校 アンケート結果まとめ

## 【アンケート項目】

- ①授業の始めに、今日どのような学習をするのかを把握してから学習に取り組んだことはありましたか。
- ②授業でグループで話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したことはありましたか。
- ③授業で課題の解決に向けて話し合ったり交流したことで自分の考えをもてるようになったことはありましたか。
- ④授業で話し合いや集めた資料から自分の考えが変わったり、深まったりしたことがありましたか。
- ⑤授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思ったことはありましたか。
- ⑥授業で学んだことが以前に学習した知識とつながったことはありましたか。
- ⑦授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したことはありましたか。

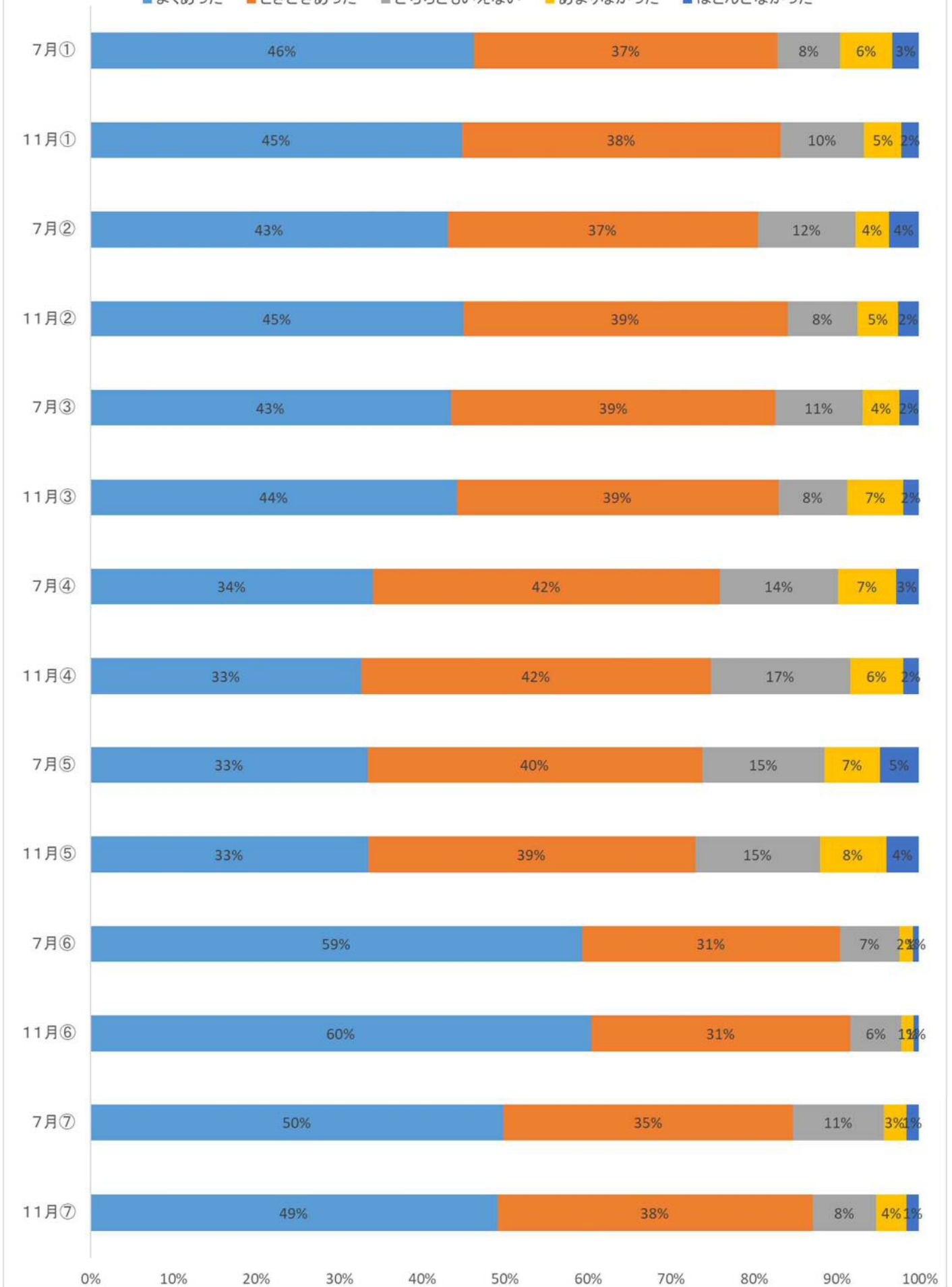
国語

■よくあった ■ときどきあった ■どちらともいえない ■あまりなかった ■ほとんどなかった



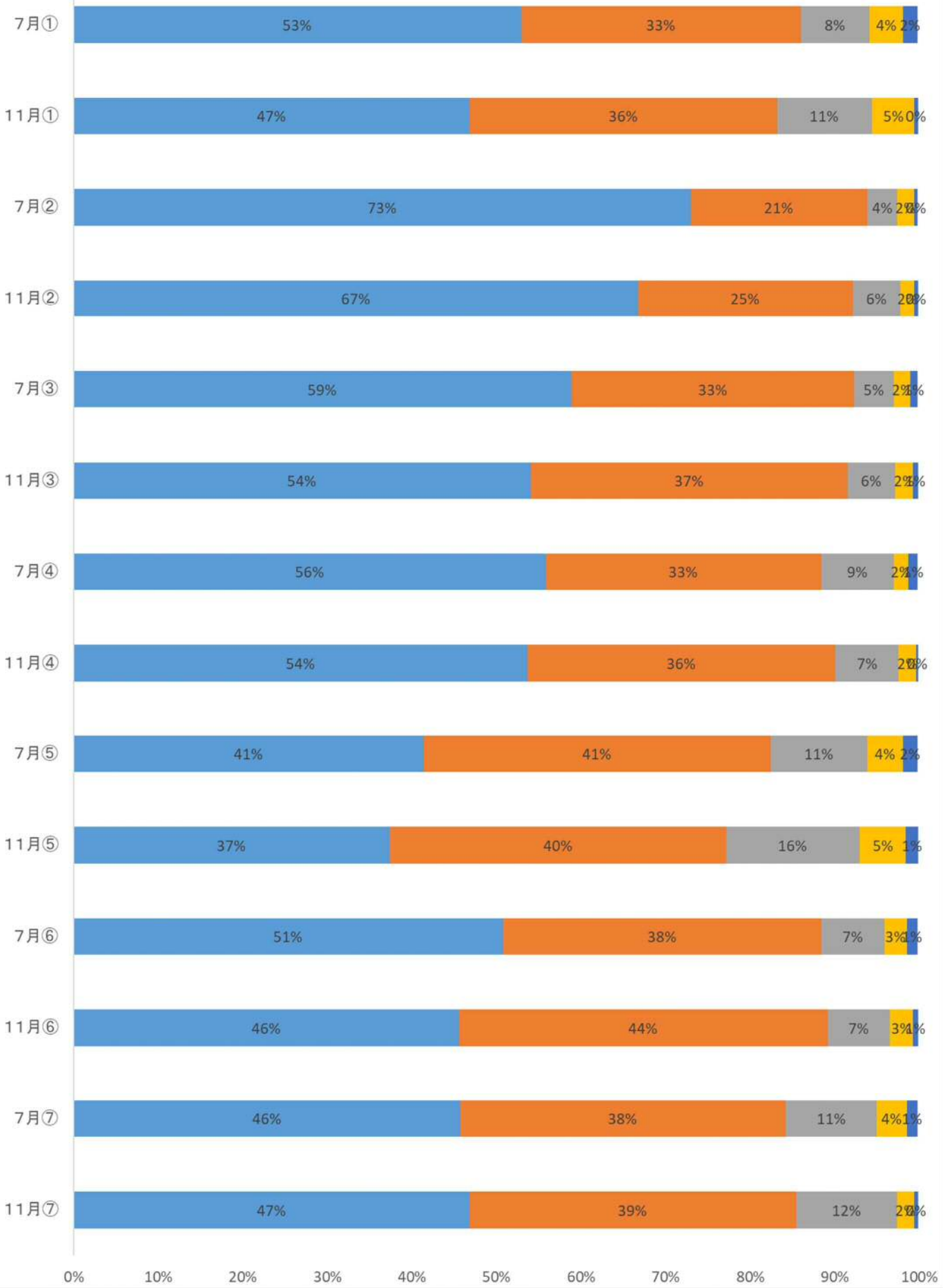
## 数学

■よくあった ■ときどきあった ■どちらともいえない ■あまりなかった ■ほとんどなかった



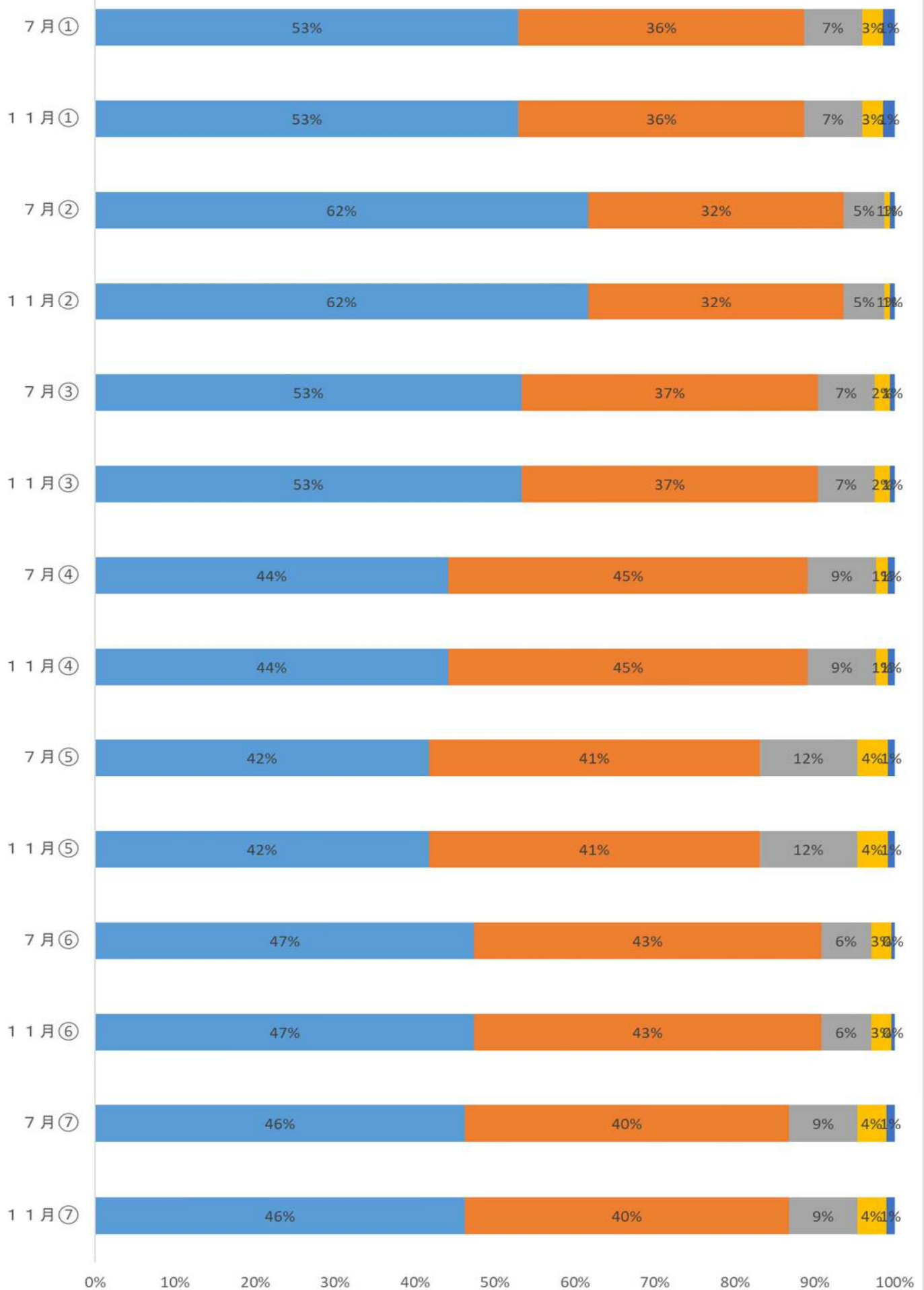
### 社会

■よくあった ■ときどきあった ■どちらともいえない ■あまりなかった ■ほとんどなかった



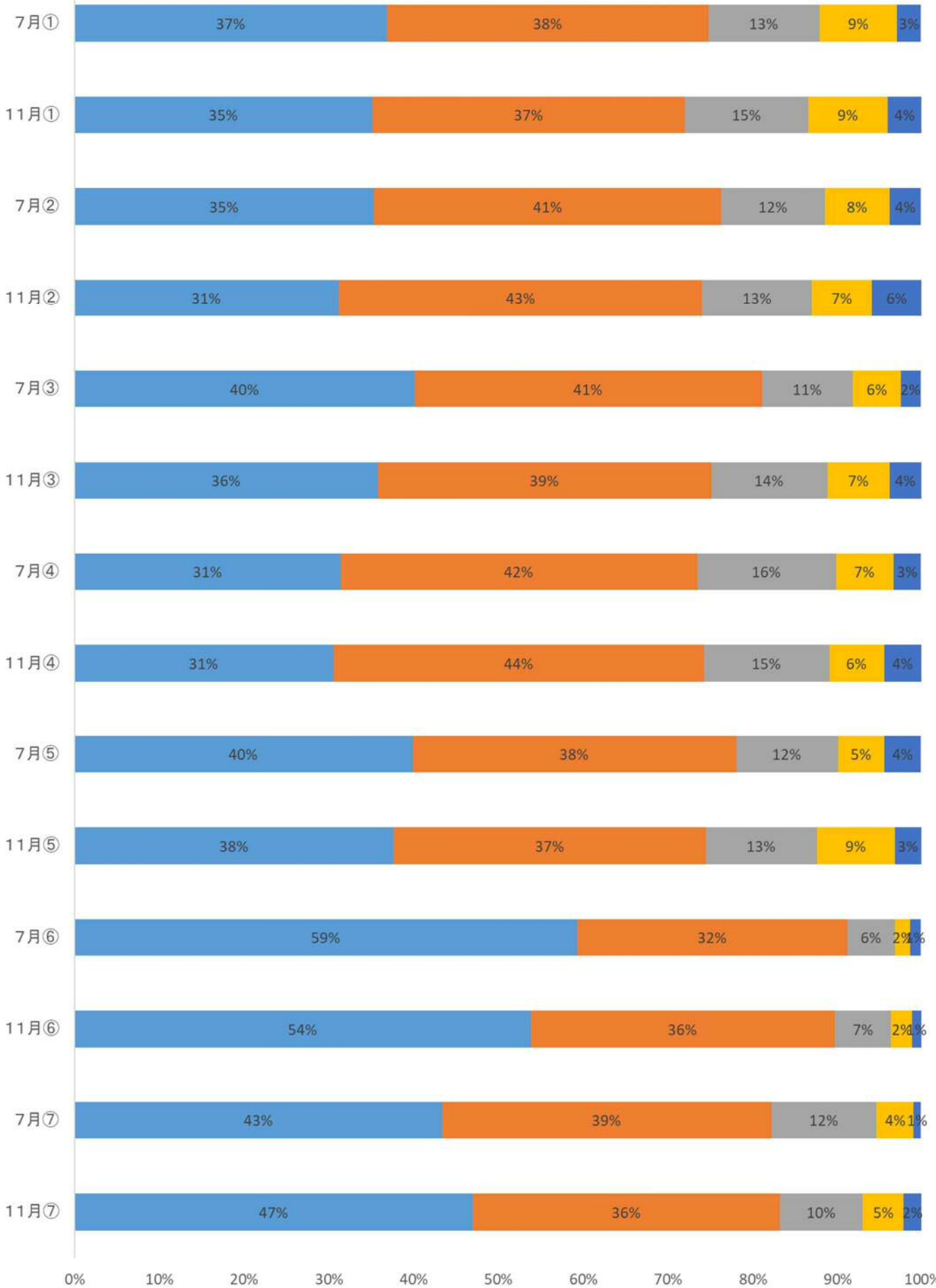
### 理科

■よくあった ■ときどきあった ■どちらともいえない ■あまりなかった ■ほとんどなかった



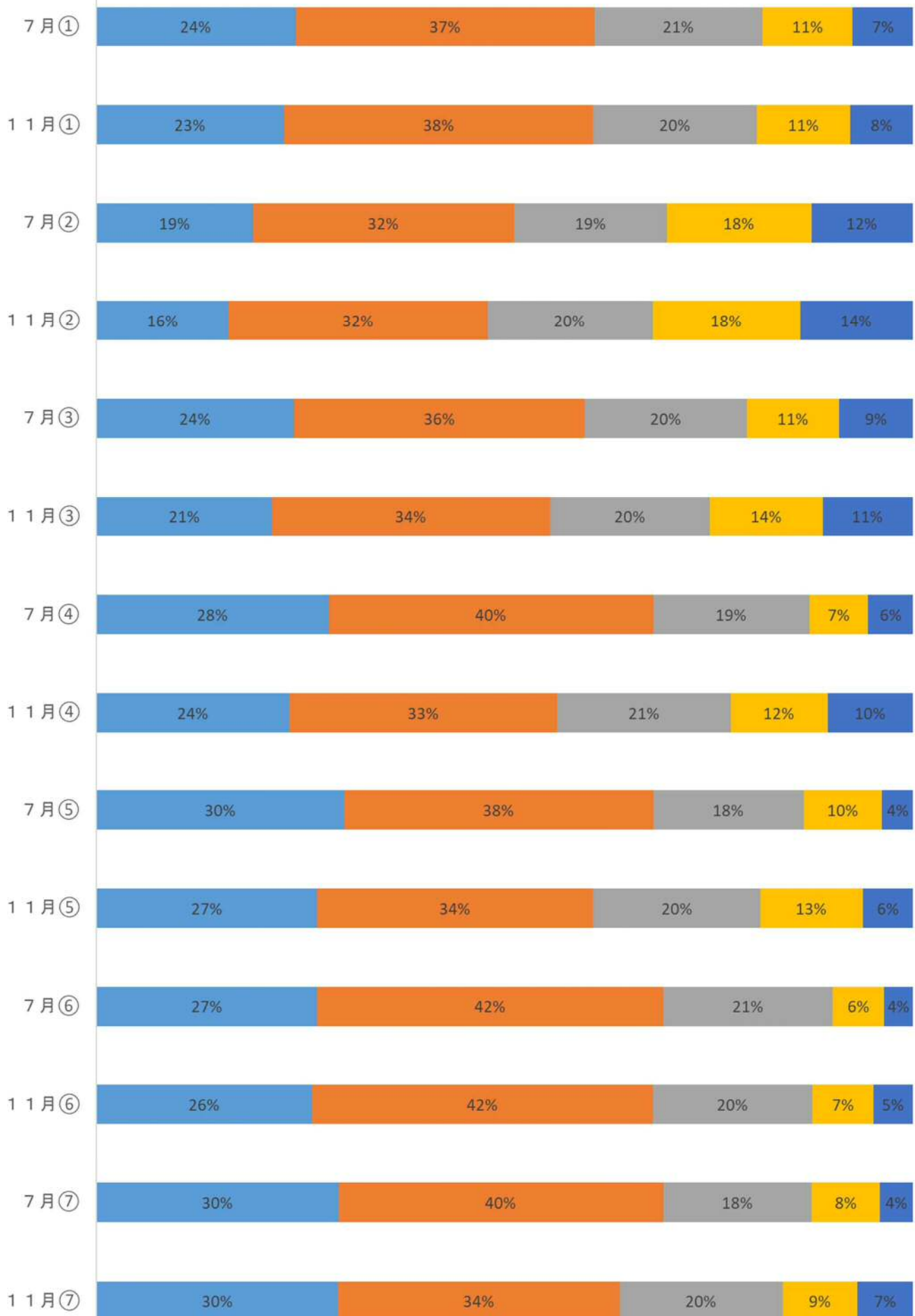
英語

■よくあった ■ときどきあった ■どちらともいえない ■あまりなかった ■ほとんどなかった



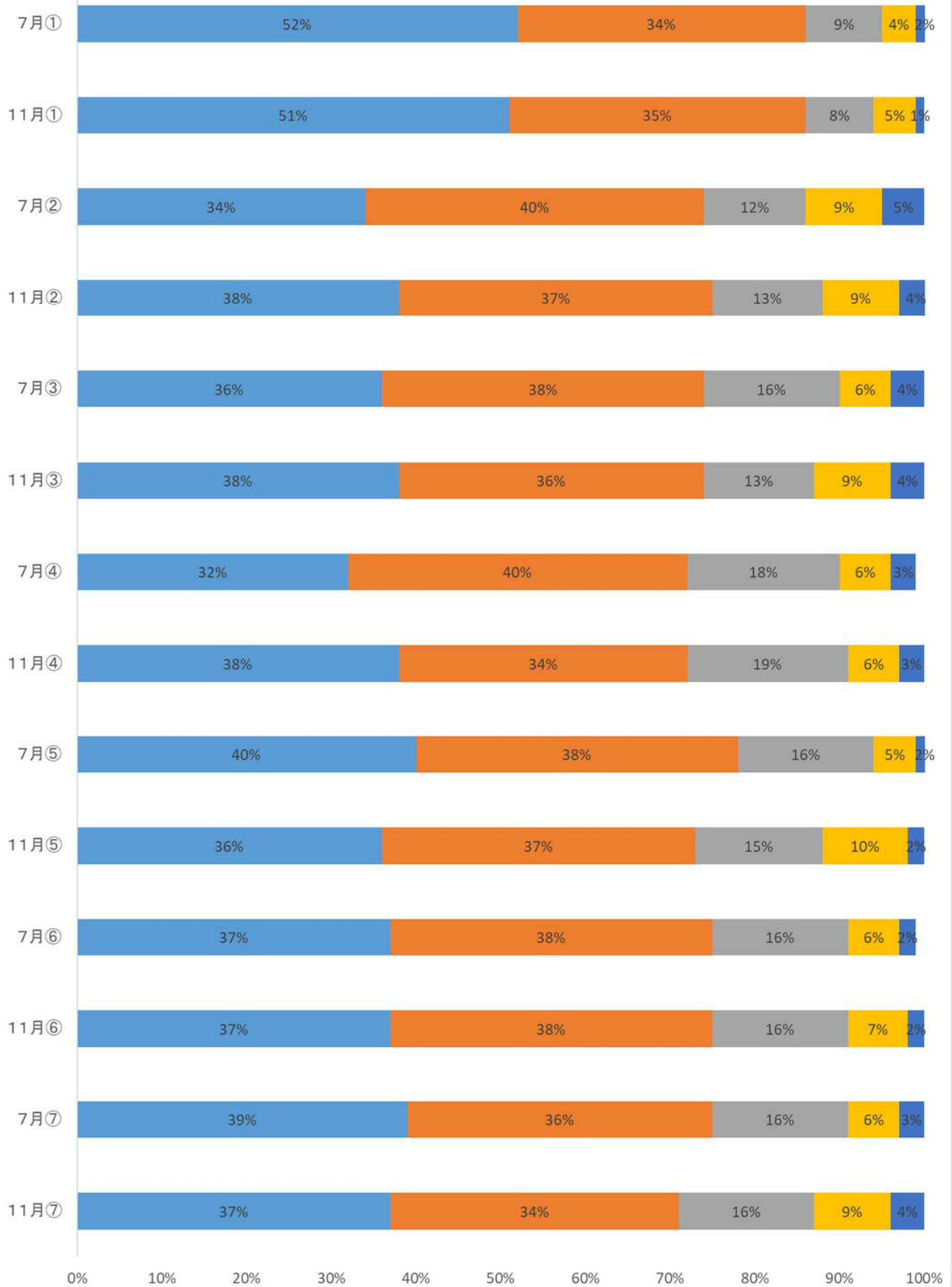
## 音楽

■ よくあった ■ ときどきあった ■ どちらともいえない ■ あまりなかった ■ ほとんどなかった



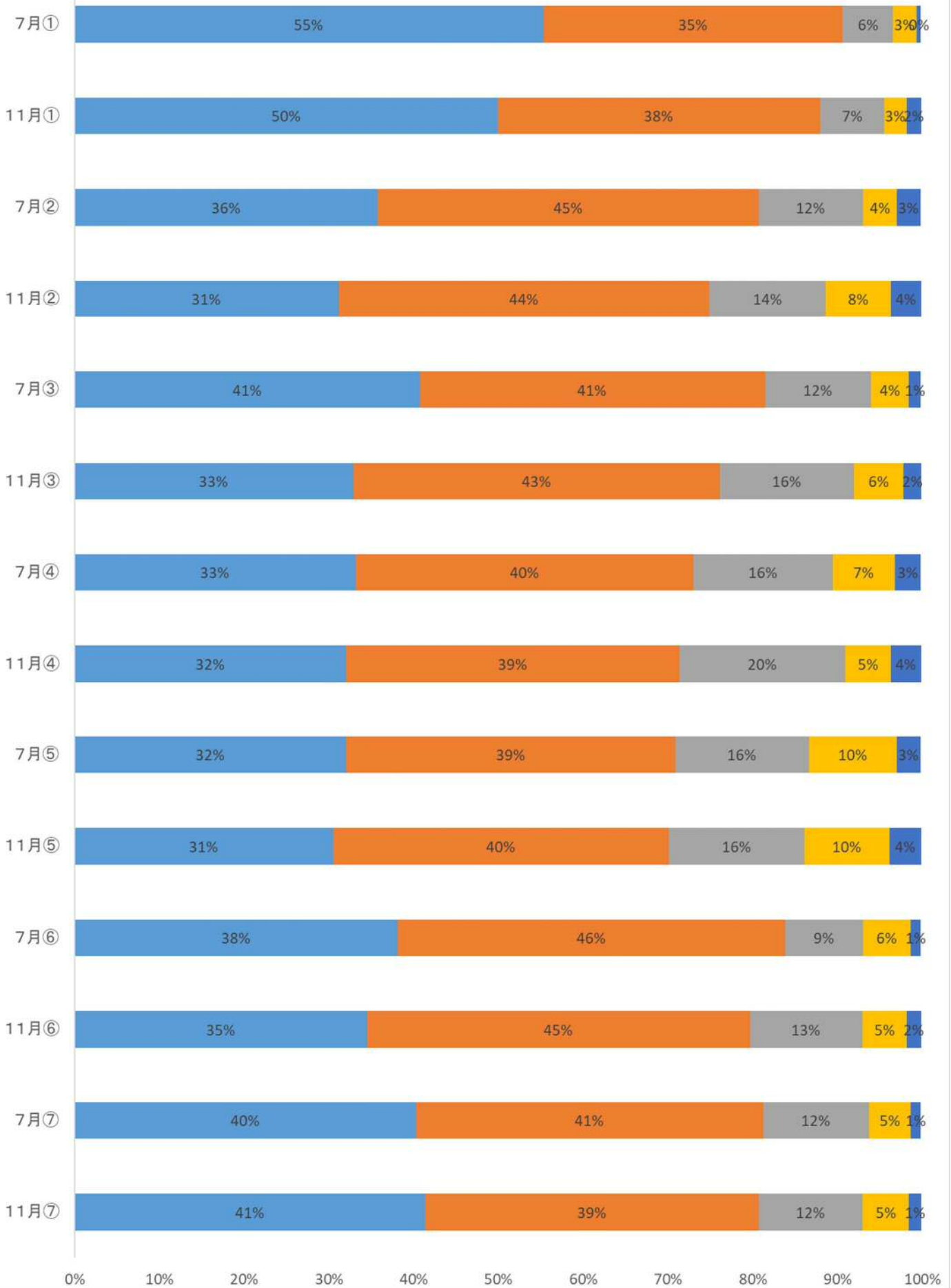
### 美術

■よくあった ■ときどきあった ■どちらともいえない ■あまりなかった ■ほとんどなかった



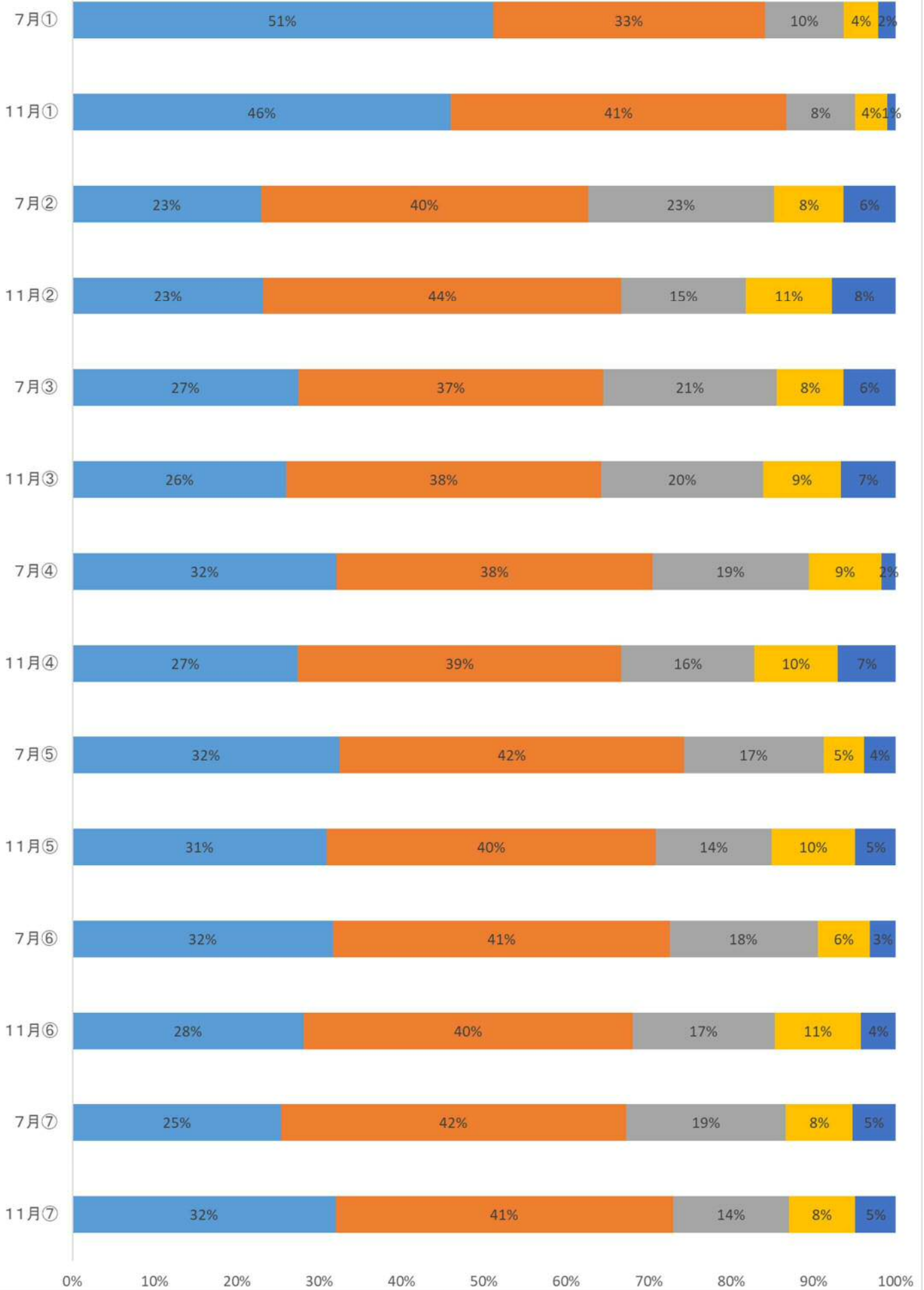
### 体育

■よくあった ■ときどきあった ■どちらともいえない ■あまりなかった ■ほとんどなかった



### 技術

■よくあった ■ときどきあった ■どちらともいえない ■あまりなかった ■ほとんどなかった



### 家庭

■よくあった ■ときどきあった ■どちらともいえない ■あまりなかった ■ほとんどなかった

